

# 公立・自主夜間中学の 社会的意義と課題を考える

宇都宮大学

## 第1日目

2020年12月5日(土) 13時半から17時

司会 加藤 佳代

### 解説① 公立夜間中学と自主夜間中学

公立夜間中学校(以下、公立夜間中学と略)とは、夜の時間帯に授業が行われる中学校をさす。

戦後の混乱期には生活が大変で、中学校に通う年齢の人の中には、昼間は仕事をしたり、家事手伝いをしたりと、昼間に中学校へ通うことができなかつた人がいた。そこで、そういった人たちに義務教育の機会を提供できるように、公立中学校の二部授業という形で、夜に授業が受けられる夜間学級を設置したのが夜間中学の始まりである。1955年前後には設置中学校の数は80校以上を数えたが、就学援助策の充実や社会情勢の変化に伴って減少し、現在では10都府県28市区に34校が設置されている。

2016年12月に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」が成立し、公立夜間学校の法的位置づけが明確になるとともに、全ての地方公共団体に、夜間中学における就学機会の提供等の措置を講ずることが義務付けられた。このことを踏まえ、文部科学省では、少なくとも各都道府県に1校は夜間中学が設置されるよう、全国の自治体に呼び掛けている。

2018年度まで、全国夜間中学31校のうち、兵庫県3校のみが「分校」方式で、その他はすべて「夜間学級」として開設されていた。2019年度開校の埼玉県川口市と千葉県松戸市の公立夜間中学は「分校」、2020年度開校の茨城県常総市の公立夜間中学は「夜間学級」方式であった。徳島県と高知県は2021年4月に全国で初めての県立夜間中学を開校する。徳島県は「単独校」、高知県は「夜間学級」。また、札幌市は2022年4月に市立の夜間中学を「単独校」として開校する。

自主夜間中学は、基本的に市民のボランティア団体が運営する学校である。

全国夜間中学研究会は、全国の自主夜間中学関係諸グループ一覧を公開している(2017年9月現在)。それによると、北海道から沖縄まで17都道府県で37の団体が活動を行っている。このうち、いくつかのグループは、公立夜間中学の設置を求めることを第一の目的とする団体(北海道に夜間中学をつくる会、福島に公立夜間中学をつくる会、岡山に公立夜間中学校をつくる会等)の事業の1つとして自主夜間中学を開講している。学習内容と方法、スタッフ、運営体制の面で比較すれば、自主夜間中学の在り方は実に多様であるが、学習者の面では、高齢者や障がいのある人が学び直すために通うほか、外国人や不登校の若者らの受け皿になっている点がほぼすべての自主夜間中学に共通している。全国の大半の自主夜間中学は週に1回以上の授業を行っており、また、授業料・入学金はほとんどが無料である。

### 挨拶

#### ○加藤佳代

これより「公立・自主夜間中学の社会的意義と課題を考える」を開催いたします。私は本日の司会を務めさせていただきます、加藤佳代と申します。普段は神奈川県横浜市にあり、神奈川県立地球市民神奈川プラザの中で、外国人教育相談窓口のコーディネーターをしております、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

本日のこのシンポジウムは公立及び自主夜間中学について議論を深めるために宇都宮大学国際学部、田巻松雄研究グループが主催するものです。主催者を代表いたしまして宇都宮大学国際学部教授田巻松雄、そして宇都宮大学国際学部長佐々木一隆よりご挨拶を申し上げます。

#### ○田巻松雄

それでは、改めまして、皆さんお越し頂きありがとうございます。コロナの都合で人数制限があるものですから、直接お越し頂けない会場の外からご参加して頂ける方々にも感謝申し上げます。今日は午後、明日は昼まで、公立夜間中学と自主夜間中学の社会的意義と課題について色々な角度から考えるということで、皆様と一緒に時間を過ごしていきたいと思えます。私が研究代表者をやっている研究グループのテーマは、非常に短い言葉で言うと、多様な学びの場の保障ということになります。

日本社会の中で多様な学びを求めている人たちがいると言う現実、少し遅かったかなという気がするんですが色々気づくことがありまして、多様な学びという事を主テーマにして関係者の皆様と意見交換をしたいという希望は前から思っていました。

私自身の思いは明日の9時から30分ほどの中で話をさせて頂きましても、まずはとちぎの地で公立夜間中学や自主夜間中学に関する関心がどんどん高まって、色々な関係者と協力してやっていけるような期待をしながらやっていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○佐々木一隆

改めまして皆様お越し頂き、誠にありがとうございます。今紹介がありました国際学部長の佐々木と申します。よろしくお願いいたします。今日はお忙しい中ご参集頂き本当に嬉しく思います。

夜間中学は公立と自主の両面がありますが、夜間中学というのは多様な学びの場を提供するところで、結果的にそうなった面もあるかもしれませんが。高齢者、若者、それから外国人の方々のコースになるのだと思いますが、そういう多様な姿というのは重要であるというように思います。私は国際学部におりますが、国際学部というのは多様な学びの場だと間違いなく言えると思えます。まず事情をお話ししますと、入試制度が非常に多様であるということがございます。一般入試に推薦入試、そして特別入試がいくつもあります。帰国生に社会人、それと私費外国人留学生、それから外国人生徒入試ですね。こういった様々な入試形態を経て国際学部に入ってくるので、学生たちは自ずと多様なですね。私はこれを非常に面白いことだと思っています。また、日本国籍の学生も日本全国から集まってきます。これも宇大の中では他の学部にないところでもあり、他の学部に比べて突出しているところでもあります。こういう意味で学生たちは多様であると言えるところがあります。さらに、教える側である教授陣も多国籍になっています。これもまた国際学部の宝だと思っています。こうした多様な学びの場を身をもって体験してきた私から言わせて頂きますと、中学というところで、また別の学校ですけど、そこでも多様な学びの場が展開



加藤佳代の司会で2日間の集いが始まった

されているということに非常に興味を持っております。ですので、今日明日のシンポジウムは大変興味深く、楽しみに参加させて頂ければなと思っています。

今回参加されている方は夜間中学の関係者、それから宇都宮大学国際学部の研究グループで田巻さんが代表ですが、私も分担でお手伝いさせて頂いております。非常に楽しい科研、科学研究費の会となっております。それからもちろん学生の皆さんも忘れてはなりません。こうした中で今日明日という形でシンポジウムを持てるという事は大変嬉しいことだと思っています。今日明日と大いに学ばせて頂きたいと思っておりますので、2日間どうぞ宜しくお願いいたします。

## 第一部 公立夜間中学と自主夜間中学

○工藤慶一

「札幌遠友塾自主夜間中学の30年とこれから-2022年4月札幌市立夜間中学校の開校を前にして」

\*2020年12月3日の札幌市議会で、長谷川教育長は「校長や事務、養護を含めた十分な教員数を確保するために、全国に先駆け、夜間学級や分校ではなく、一つの中学校(単独校)を設置する」と発表した。12月21日、札幌市が設置する公立夜間中学の設置に係る基本的な考え方をまとめた札幌市立公立夜間中学設置基本計画(案)が公開され、2022年4月の開校に向けて大きく動き出した。今回の基本計画は(案)は、遠友塾が十年来主張してきたことに教育委員会が耳を傾け、アンケート調査を行い、昨年6~7月に工藤さんも委員として参加した検討会議の意見が多く反映されており、教育を大きく変えるものと期待される



今までの経過や意義、今後の進め方についてインタビューを受ける工藤慶一さん

皆さんこんにちは、札幌から来ました工藤と申します。私は1948年、昭和23年に旭川で生まれました。なんでこんな話をするかというと、私がなぜ夜間中学に志を立てようと思ったのかということがここからくるからです。旭川は、今は分かりませんが私の小さい頃、小学生の頃ですね。とにかく遊びでもなんでも子ども会単位で動くことが多かったんです。それには理由があって、真冬になったら朝何でもなくともお昼くらいになったら大雪が降って吹雪となり、集団下校しなければならぬときがあるんです。命を守るために必ず集団で下校するという、そのために「子ども会」というのがあったんです。特に私も5年生6年生の時には、1年生から6年生までが集団になって帰っていたんですが、もう家の近くまで来ると子どもの胸のあたりまで雪があって、ですからそのような中では1年生2年生はピーピー泣いてばかりですから5年生6年生が守りつつ一緒に帰っていました。実はそのような場所で何が起きたかということ(樺太から引き揚げてきた方の集住した地域で、学校に行けなかった人が多かった)が、私の夜間中学の活動にとっても大きな影響を与えています。

1990年に札幌遠友塾自主夜間中学ができて、ちょうど丸30年経ちました。それで今30周年の記念事業を色々やっている中で、来年の3月に完成を目指している記念誌の作成を今行っている最中です。なお皆さんのお手元にこのようなチラシ等がありますが、その最後に遠友塾のホームページがありますので、もし今日の私の話を聞いてレジュメが欲しい、あるいは資料が欲しいということであれば、このホームページに記入欄がありますので送ってください。そうすればすぐに添付ファイルでお送りします。

今日の題名は「札幌遠友塾自主夜間中学の30年とこれから-2022年4月札幌市立夜間中学校の開校を前にして」という題目です。実は一昨日とても大きな動きがありました。一昨日の午後1時から行われた札幌市議会本会議の第四定例会に自民党の議員がある質問をし、3時から民主市民連合の方が質問をし、さらに昨日は午後から公明党の議員が質問をいたしました。夜間中学に関する質問です。それで、自民党の議員が「どのような形態で行うか、教員数も確保しなければいけないんだけど〇〇中学校夜間学級で行くのかあるいは〇〇中学校〇〇分校という形を取るのか」という質

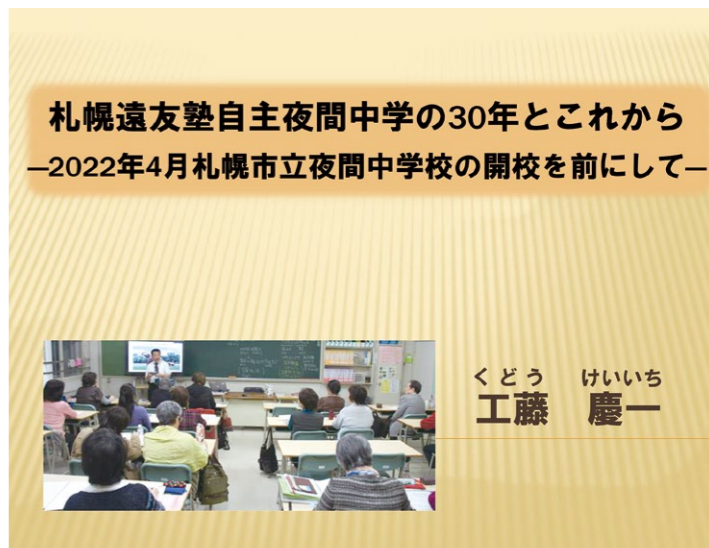
問をしました。それに対して札幌市の教育長は、いやどちらも取らない、**札幌市の公立夜間中学校は単独校でいく**、と答えました。単独校です。これはどういうことを言っているのかというと、夜間学級の場合は3学級で教員は4名です。これは義務教育標準法という法律で定められている事柄が関係しています。分校の場合は教頭と教員で8名です。しかし、単独校の場合は校長1、教頭と教員で8、養護教員1、さらに事務職員1の計11名がつきます。それから教員の形態によりますが様々な人員を配置するというので、単独校でやるという表明をしたんです。実は来年開校する徳島県立夜間中学もその形態を取るそうですが、徳島県は県立でいきますので、県立の中学校はないので、2部とか分校とかという形態は取れないわけです。なので札幌市がほぼこの先頭を切るというビックなニュースが突然入ってきたわけです。

それから次に、様々な条件に関する質問に対して、長谷川教育長は「**バリアフリーである**」と。どこかの街であったような車椅子ダメよなんていう馬鹿なことと言わない。それからスクールカウンセラーを置きます、通訳も確保します、ということの上にさらに就学援助と給食についても検討をしますという答弁をしました。これが民主党の質問に対する答えです。昨日の公明党の議員に対しては、「就学年限は3年という枠にこだわられません。柔軟に対応します」というような答弁がありました。

なぜ私たちは北海道議会、札幌市議会の議員を通じてそのような主張をするのかというのは、過去の様々な行政との交渉の中で、我々と行政が単独でぶつかると、どうしてもこちらが不利になります。不利になったとき「行政の常識は、実は世間の非常識である」ということを明らかにするため、壁を突き抜けるためには各会派の議員、文教委員の議員、政党の幹事長、とにかく伺って理解を求めて、全会派で札幌市あるいは札幌市の教育委員会に対して働きかけを行っていく。今、昨年来、公立夜間中学の設置が決まっていたので、この次はそのような中でどのような夜間中学を作るのかという議論をします。おかしなことが出てきたら、必ず議会で質問をする、答弁が出る、それがマスコミで流れる、それを市民が見る、これが大事なんです。これがないと単独でバッチンとやったら民間が負けますよ。だから、必ず議員を通すという、さらには世間がそれを監視するという作業がどうしても必要になるわけです。

まだまだありますが時間が無くなりますので、端折りながら行きますね。夜間中学の始まりは、これは省略しますが1つだけ、1949年の未公表政府資料の中で、長期欠席児童73万6,620名、この中で東京、高知県、沖縄県はデータを提出できませんでしたが、この73万6,620名の中で一番人数が多い県は北海道なんです。北海道は未就学者が多いんです。これも原因があります。それは何かというと、直接的な戦争の被害の他に、昭和20年の東京大空襲の直後の閣議決定で、家を焼け出された人が北海道の開拓に入るべしという閣議決定がなされて、北海道もそれを受け入れました。しかし、その過程の中で、開拓に入ってきた人たちは片道の旅費だけで、食べる物も家もないわけです。そのような中で、しかも明治時代以来の開拓なので良い所は全部開拓されていて、結局山奥とか離島とか、とんでもないところへ入るわけです。そして必ず子どもがそこにいるわけですよ。学校も遠い、そうすると学校に通えないという子どもが膨大に生まれるのだということは容易に想像できると思います。それが国勢調査の未就学データではっきりと出ています。これがいかに多いことか。満州、樺太、南方諸島、それから本州爆撃被害移住によって、1945年昭和20年からたった6年間で90万人も増えているんです。北海道っていうのは大体当時は350万で今は大体500万くらいと言われていますが、たった6年間で90万人も増えるはずがないのに増えちゃったんです。これが北海道で未就学者が多い最大の要因なんです。このために、今でも遠友塾に入ってくる人が後を絶たないんです。

それから、もちろんポリオなどの病気で就学免除になり学校に行けなかった方、それから次第に増えてきている不登校と引きこもりの方、そして特に私自身が話を聞いても驚くほどの経済格差によって困惑している若い人、無戸籍の若い兄



くどう けいいち  
工藤 慶一

弟、それから外国から日本に来た方、このような方たちが後から後から来ます。遠友塾の授業の時には、大体毎回入学希望の見学者、スタッフ希望の見学者が必ずいます。「あれ、今日誰も見学者居ないの、珍しいね」というような話になることがあります。

遠友塾では今までたくさんの方がいましたが、字が書けないから投票に行けないということを書いてきた人たちが何人もいたことです。それから胆振東部地震では、ラジオで聞いていてもそれが漢字に変換できないので避難所に行けないということがありましたね。それから今年5月の10万円のコロナ特別給付金の申請ですね。このときは学校も開けませんので、各クラスに1人2人は必ず書けない人がいますから、その時は必ず事前にその方に、「こういう文書が来るから、必ず電話ちょうだいね」と伝えておいて、それで電話でやりとりしましたが、1～2時間の時間がかかります。最初からですよ、「給付(きゅうつき)」って何ですかって聞いてくるんですよ。「給付(きゅうふ)」って平仮名振ってくれたら分かるのに、「きゅうつき」としか本人が読めなかったら意味とれないわけですよ。そして右詰めで数字を書くとか、どこに何を貼るとか色んなことをすったもんだすったもんだ電話でやり取りしながら、最後に個人の証明書をコピーして貼るってことになったら、「コピーってどうやって取るんですか。」って、こういう話なんですよ。だからこういう人も結構多いはずだっただけで、それがそこで分かったわけです。このコピーの問題はさすがに私も想像ができなかった。そういうことがたくさんありました。そしておまけに10月の国勢調査ですね。これもやはり書けない人が多いので、「じっくりクラス」では、それが授業になりました。まあそういうことはたくさんあります。

遠友塾は1990年の4月、札幌市民会館で授業を始めました。1期生100名。後から後から来ました。そして当時はまだスタッフ20名弱でしたので、もう何をどうやったらいいか全く分からないという手探りの中で開始しました。で、それから30年経ったわけですが、この「遠友」という遠い友と書く由来は、戦前明治27年から昭和19年まで50年続いた札幌遠友夜学校という学校があって、創設者が新渡戸稲造という人です。この人が遠友という名前を付けました。論語の「朋(友)有り遠方より来る。また楽しからずや」から、遠いと友を結び付けて遠友塾としました。知らない人でも仲良くやっていける人、そして子どもが好きな人等々、新渡戸は「遠友になれる人」をスタッフとして選んだと記録に書いてあります。

ですから、ここで基準がありますね。勉強ができるっていうのが夜間中学のスタッフっていう条件じゃないんですよ。問題は人を支えるっていう気持ちがあるかないか。これだけなんです。これがないと、うまくいかないと思います。というより、公立夜間中学もこのような姿勢がないとうまくいかないのではありませんか。

忘れえぬ受講生はいっぱいいますが、この桑山さんという方は、実は文章で添えてあるんですがこれでもぜひ見て頂きたい。この方は小学校1年生の途中で子守に出されて学校に行けませんでした。戦前のことですから、小学校はカタカナから入って、来たときに平仮名が分かりませんでした。もちろん漢字は分からない。それで何とか10年以上掛かって文章も書けるようになり、人前で発表するようになりました。そして、人権救済の申し立てを全夜中(全国夜間中学研究会)がしたときに、弁護士の聞き取り調査によって、彼女は日弁連(日本弁護士連合会)に文章を提出しました。したのですが、それを後になって全面的にスタッフの力を借りて、半年間掛かって自分で書き直して、読んで、そこで1つの文章を作ったわけです。そして、全国夜間中学研究大会で、桑山さんは2006年の全国夜間中学校研究大会で体験発表を行いました。それまで、全国夜間中学校研究大会での発表っていうのは、公立夜間中学の生徒さんだけでした。ここで初めて自主夜間中学の生徒が発表したっていう記念すべき大会でした。この方は今年の4月にお亡くなりになりました。この文章を遠友塾30周年の記念紙に載せようと思っています。

1つ大事な点があります。その中の文章です、これ。「覚えられない自分が情けなくて、藻岩山に向かって何度も涙を流しました。横山さんにやめようかと相談もしました。もう少し頑張ると励まされて気を取り直しました」とあるんです。これがないと自主夜間中学は成り立たないんです。人を励ます、落ち込もうとしてやめようとするのを必死に繋ぎ留める、このような気持ちがなければ、夜間中学は上手くいかないと思っています。公立夜間中学ができてもしこの姿勢だけは見習ってほしいと思います。

この方たちは釧路から通われたご夫婦です。ご主人は太平洋炭鉱に務めて、もうお亡くなりになりましたが、入学式の時に作業着を着てリュックサックを背負ってきたんですが、突然いなくなったかと思うと礼服を着て出てきました。そして、お二人ともやはり小学校1年の途中までしか行ってなくて、学校には行けていませんでした。卒業の後、卒業っていても

今でも札幌と釧路ってやっぱり遠いんですね。夜の9時くらいに勉強終わって夜間バスに乗って帰るんですけど、家着いたら朝の6時なんですよ。それを週一回とはいえね、いくら何でもやっぱりあの遠い中お金を掛けてね、ここまで来るっていうあの気持ちですよ。しかも、だから逆に私たちはそういう人たちを見ていると、こっちが襟を正すわけですよ。僕らだって普通の人間ですから時にはやはり易きに流れるんですね。それを常に正してくれるのがこの方たちでした。こういう方たちまだまだいっぱいいます。卒業記念パーティーのときにこのご夫婦と抱き合っただけの記憶があります。

市民会館で授業を行っていましたが、実は2007年の3月に耐震構造の問題で取り壊しになりました。5年前にその報道がなされて、以来私たちは教育委員会と交渉を重ねましたが埒があきませんでした。とりあえず札幌市の教育文化会館だということで2007年の4月から2年間使わせて頂きましたが、とんでもない問題が起きました。年約60万円の会場費がかかっていた札幌市民会館は週1回水曜日の夜に4クラスで、大体生徒さんとスタッフ合わせて150名という所帯でしたが、同じ条件で教育文化会館の会議室を借りると年間110万円だと、しかも1年分先に払えと、こう来たんですよ。これはいささかですね、いくら何が何でもひどいということで、要望書を市長宛てに書きました。そのときに初めて半額減免の措置を貰い、そして支払いは前の月でいいというような条件を獲得したわけです。しかしこのときはっきり、私たちは、遠友塾単独で教育委員会とぶつかるのはここまでが限界だと思いました。もうだめだと、このままいっただらすべて潰されてしまう。そんな感情を持ったわけです。

それで、交渉を主な任務とする「北海道に夜間中学を作る会」という会を立ち上げ、行政交渉、それから、全道・全国を視野に入れて、新たな市民を募ってこの会を作り、5項目の要望書を上げました。自主夜間中学の支援、公立の夜間中学の設置、小中学校への大人の受け入れ、訪問教育の実施、それから公的な文書に平仮名を振ること。これは今でもこのまま生きて、毎年のように続けています。ですから2007年から議会への呼びかけを始め、もう13年になりますが、もう毎年のように絶えることなく十年一日のごとくお願いしています。ですからその積み重ねが、一昨日、昨日の議員質問に現れてきたのではと思っています。継続は力です。

なおここで訪問教育という言葉がありますが、これは私の自宅のそばに北海道で初めてできた養護学校、真駒内養護学校という学校がありますが、そこに4つの部があります。初等部・中等部・高等部そして訪問教育部。この訪問教育も、もう数十年の歴史を持っています。私たちはやはりそういう方たちからも学ばないといけないと思っています。途中なかなか教育文化会館の次どうするか、空き教室を目指しましたが、倉庫にしている教室も空き教室じゃないという理屈ですね。だからいくら電話です、教育委員会が「教室空いてるか」と聞いても、「いや空いてないよ」。それで終わりなんですよ。こんなバカなこと繰り返しているのも駄目だということで、とにかく夜だけ使わせてっていうことで色々やったわけです。

非常に長い間苦勞しました。そして2009年に札幌市立向陵中学校が受け入れをしてくれました。ここの校長先生が、「夜間中学が我が校に入ってくるということは、なぜ学ぶのかということが若い人たちにとって、とても良い影響を与えるはずだから受け入れる」ということで、教頭先生始め全ての教職員が協力してくれました。例えばここに載っている、遠友塾の看板は技術家庭の先生が作成をしてくれました。今でも向陵中学校の東玄関に貼られています。実はこれがあるからこそ、教職員が代替わりしても向陵を使うという一つの前提みたいになっているんです。これは、その時の校長のおかげだと思っています。実はこの看板は向陵中学校に行く前の挨拶に行ったとき職員会議に出させてもらったときに急に贈って頂いたものなんです。もう涙があふれて止まりませんでした。PTAとか町内会の方も協力してくれました。それから



釧路→札幌 夜間中学へ夫婦

毎水曜日の夜、約60年ぶりの授業に聴き入る。自宅のある釧路市から、「学校」が開かれる札幌市民会館まで特急で往復10時間近く。だが、道程の長さは苦でない。夫婦で机を並べ、「同級生」に会えるのが楽しみだ。  
矢本信夫さん(63)と光子さん=写真。戦中戦後に就学がままならなかったかつての児童生徒が集う「札幌遠友塾自主夜間中学」。夫

妻は、3年課程の1年目。年明け最初の授業があった22日は、数学で小数を学んだ。クラブづくりは「いやあ、難しかった」と苦笑いの信夫さんだが、学べることに自体がうれしい。  
2人とも小学校に1年行っただけで、農家の子守などの奉公に出た。「貧しくてね。学校どころじゃなかった」  
太平洋炭鉱の炭鉱マンを終え、2人の子供も独立し

て、学びの舎に。「先生もほかの生徒も温かくて。今が青春。生まれて初めてですよ、こんなにいい人たちに囲まれて」と光子さん。  
毎日、そろって自宅近くを1時間ほど散歩する。びったり寄り添う暮らしだ。仲がいいんですね、と声を掛けると、「いつもけんかしてばかりよ」と、顔をしかめた光子さん。戦中派の照れ隠しらしい。

なんと釧路から札幌遠友塾に通われたご夫婦

当時の札幌市教育長も非常に協力してくれました。さらに、どんどんその輪が広がって函館、釧路、旭川に自主夜間中学が開校していきました。



非常に長い苦勞の末、札幌市立向陵中学校の教室が借りられた

なお、コロナのために今年札幌遠友塾は3月から7月まで休塾をし、8月から教育文化会館で授業を再開しました。なぜかという向陵中学校も含めて、今中学校の先生方は授業が終わった後に全部消毒するんですね。私たちの場合にはそういう時間がないので向陵は使えないということで、以前使用していた教育文化会館を使っています。

そして、条件整備について。先程の北海道に夜間中学をつくる会の活動として、議会対策についてお話をしました。最初2007年の12月に、札幌市議会の文教委員会に、「義務教育の機会が実質的に得られていない人々への就学保障を求める陳述書」を提出しました。しかし、このときは継続審議となって3月末に廃案となりました。今から考えるとまだ期が熟していなかったんだろうと思います。そこでとにかく毎年のように、北海道に夜間中学をつくる会の総会を経て様々な意見を集約して、そしてその決議を基に毎年のように教育委員会と議会に要請を行っていたわけです。その中で様々な問題を焦点化することができましたので、ついには2012年札幌市議会と北海道議会が、法整備を求める意見書を国に上げるということが採択されました。これは実は私たちが提起したわけではなくて、議員立法的な形で成功しました。これは全国初だと思います。その後、多くの市町村議会がこの決議をするようになりました。

先ほど国勢調査の話をしたんですが、それから2014年に国勢調査の在り方の改善を求めました。これは北海道議会が採択され、なおかつ札幌市議会の場合は、10月6日の総務委員会で陳状が全会一致で可決されて本会議で通りました。これは私たちが主体的に担ったものです。こういう、議会に行って陳状等を上げるときには必ず5分間陳述をさせて頂くんですが、今まで3回やっているんですが、私がやると大体15分位かかるので途中で止められます。そのあと各議員からこちらに質問が来ます。約30分くらい来ます。それに答えて、その次に各議員が教育委員会に質問するという形になります。2016年9月には、先程の前川文科省事務次官に遠友塾を視察して頂きました。これも話せば長い経緯になりますけどちょっと割愛します。そしていよいよ2017年の2月27日、改めて公立夜間中学校の速やかな設置を求める陳状、これが文教委員会で全会一致可決され、更に本会議で採択されました。しかし、2017年にこれが採択されたにも拘らず、2019年の2月まで本腰を入れて設置を検討するという答弁が出るまで2年間掛かったんです。この2年間は非常に辛いものが

ありました。教育機会確保法の成立という条件があって初めてこれができたと思っています。

**すべて国民は等しく教育を受ける権利を有する。**1つだけ皆さんに考えて頂きたいのは、「国民は」で書いてありますが、国民って誰ですか、誰ですか聞かれたらなんて答えるかということをはっきりさせなければいけません。これは憲法第十条で日本国籍法だということです。じゃあ日本の国籍がない人は教育を受ける権利はないのかという質問がすぐ出てきます。それから遠友塾に来たように、無戸籍の若い人たちが来た場合に彼らも学ぶ権利がないのかという問題がすぐ出てきます。そうするとこの国民はという定義はどうするんだという問題が出てきます。しかし、日本は子どもの権利条約ならびに国際人権規約を批准しておりますので、**「国民」という意味は日本に住んでいる人すべてはという意味になります。**これははっきり政府の高官が議会で答弁をしております。この国際条約に日本は拘束されているという答弁を行っております。それから、法律の定めで教育を受ける権利がある。法律の定めてなんですかということ、はっきり言ったら義務教育に関しては学校教育法です。学校教育法には義務教育年齢6歳から15歳まで書いてあります。外れた人どうするんですかということは書いてありません。書いてないことは行政体からするとですね、夜間中学作っても作らなくてもいいってことになるんですよ。あやふやなんですよ!それが。

そこで、国籍いかに関わらず、年齢いかに関わらず、その他の一切の事情に関わらず、学ぶ権利があって、国も地方公共団体も責務として学ぶ場を設けないといけないというのが教育機会確保法なんです。その他にも教育機会確保法の細かいところを見ると、今に生かせることがとてもたくさん潜んでいます。教育を十分に受けていない者の意思を十分に尊重するという、これも大事な条文です。それから、国と地方公共団体の責務、財政の措置、これも大事なところ。そして、協議会の設置も中に書かれています。その通りでして、これもすったもんだすったもんだの末に2017年11月に、北海道教育委員会主催で第1回の協議会がスタートしました。しかし、正式な協議会ではありません。知事と札幌市長が参加していないからです。しかし、それでも、第3回に私たちは公立夜間中学の在り方を提言書としてまとめて提出し、説明をいたしました。そして第4回2019年の1月に、札幌市に公立の夜間中学を設置する、設置主体はどこかという問題は抜きにして、これはとにかく確認が取れました。そしてコロナ禍の中の第7回、今年の10月ですか、広域である北海道における複数の公立夜間中学の設置に向けた提言を、私たちは再度提言書という形で提出しました。

7月には道教委が、道内179市町村宛ての夜間中学の手引きを作って教育委員会の構成メンバーに意見を求めてきたんですよ。その中身がちょっとあまりにもひどくて。要するに公立夜間中学の設置ではなくて、地元で細々とやっているものばかりの例を集めて書いていたんです。例えば道立の夜間中学の設置とかということについては何も書いていない。自主夜間中学の支援も書いていない。だから何を言っているんだということで、激しいやり取りはしていませんが、文書で意見書を出し、さらに提言書を提出した訳です。

そして、次に公立夜間中学の開設の動きです。2019年2月、札幌市の長谷川教育長が公立夜間中学の設置を検討するという答弁を行いました。2017年2月の陳状成立から2年経ったんですよ。この空白期間で、その間に松戸とか川口市では、公立ができていて、恥ずかしいって言ったらこの上ないですよ。そしてようやく昨年の2月にこのような答弁が出て、その月に当時の文科省の中村政務官が視察に来てくれました。中村政務官は北海道出身の国会議員です。それで昨年の9月に教育長が2022年4月の札幌市立夜間中学の開校を答弁しました。

この文章は(次ページ)、今年の3月に遠友塾を卒業した年配の方の文章です。「私は樺太で小学校6年生の8月に終戦となり、その後義務教育はほとんど学ぶことはできませんでした」。これは今の話をしていますからね。昔の映画の話をしているんじゃないんですよ。今の話をしています。だから今何とかしなければならぬんです。実はですね、一昨日北大の1年生の方80名くらいに講義したんですよ。**特に「今の話なんだ」ということ、これをすごく強調しました。**

そうしていよいよ市教委の公立夜間中学担当者が決まり、公立夜間中学の在り方検討会議があって、そして来年の3月に基本計画が発表になります。その前に今回の議会の答弁で、たくさんの新たな観点ができて、実は今月の18日に、6~7月に行なわれた検討会議に参加したメンバーが各々説明を受けに行くという機会がありました。今月の21日には教育委員の教育委員会議事というのがありまして、そこで初めて正式なものとなり、1月のパブリックコメントを経て3月に基本計画が正式発表になります。ということはですね、今こままでやれるということは、市の財政部との交渉が成り立ったということなんです。財政部を動かしたってことなんです。それから、すでに教員の検討もプロジェクトチームが動き出

しました。そしてその方たちの遠友塾への見学も日程に上ってきているということです。そして、道教委に対しては公立夜間中学経費分担と就学援助の調整等を、更に道立の夜間中学(広域を扱える定時制・通信制に設置する形態)を求めています。

それで、ここで本来、これが主題なんですが、先程も言いました遠友塾が開校時に100名近い受講生に20名くらいのスタッフなので、一斉授業を中心に個別フォローを重ねる形態しか取れなかったんです。1対1なんて無理なんです。とにかく無理なことはできないし、できないことはできないので、現在4クラス編成ですが、1クラスが個別授業ですけど、約70名の受講生に現在はほぼ同数のスタッフがありますが、形態は変わりません。教科、授業内容、運営方法、受講生個人と向かい合う姿勢について、共通のまな板に乗せて真剣に議論し、問題点をどんどん改善していきます。このメリットがあるからです。個別になると非常にそれが困難です。しかもこれを30年間続けて繰り返すと、あるべき姿に向かってどんどん変身を遂げていきますので、マンネリに陥る危険性が少ないと思っています。

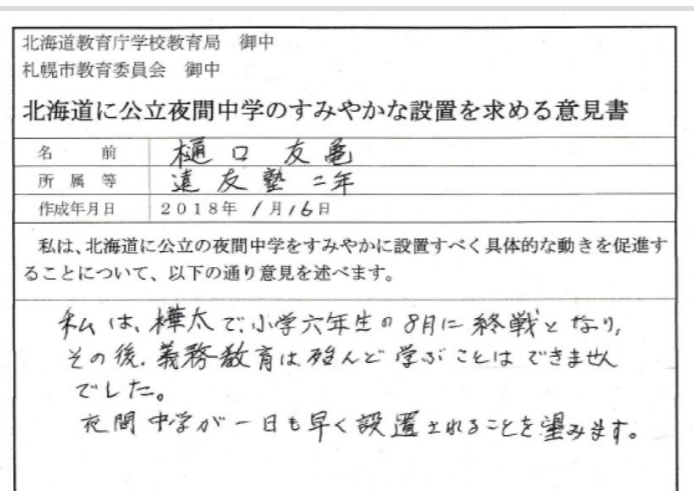
自主夜間中学は、この「ともに生きともに学ぶ」という我々のスローガンを今後開設される公立夜間中学にもぜひ生かして頂きたいということを常に発信する、すなわち教育の原点を常に発信しうる場所であるということ、また週1回だからこそ通学できるという人や、これから外に出ようとする若い人たちの足慣らしの場にもなるということ、どんなことがあっても自主夜間中学が絶対セーフティネットの最後の砦であるということを示して、こういった自負を持って当たりたいたいと思っています。

授業後のスタッフミーティング、これも大切です。実はある年配の男性が、授業の声が聞こえないと突然怒りだしたんです。それで聞いてみると障害があるわけではなかったのですが高齢者難聴ってということで、調査したら各クラスで2名くらいいるということが分かって、無線機器を導入して使用しています。おそらくそれに気が付かなければやめてしまわれていたと思います。こういうこともミーティングではっきり出てくる問題だということです。

ですから私たちは常に改善に次ぐ改善を図るということを目指して全スタッフでミーティングを行います。各クラスには役割分担があって、事務局分担もあります。ここで真ん中に介助という、これは車いすの方が2名ないし3名は常時来ておりますが、向陵中学校にはエレベーターはありませんので、エレベーターをつけてほしいというお願いをするとともに、こちらでは必ず1クラスに3、4名の男性のスタッフを介助係と認定して対応しています。車いすを上にして下にとこの作業を繰り返しますので冬場は大変ですよ。他にも、私たちは各クラスの教科についてのミーティングも行います。これは全教科で激しく反省を行います。

終わりに、今年2020年の札幌遠友塾30周年の記念の年です。記念事業として、誌上交流会の記念誌の作成を行っております。その記事がこの「こんばんは遠友塾」という中のちょっと後ろの方に載っています。なお、遠友塾の会報である「遠友だより」っていうのも30年分貯まりましたので、それもこのくらいの厚さの1冊の本になりました。私たちは電話帳って言っています。それは20部しか作りませんでした。これから増刷の予定をしています。教育委員会とか必要な分を除いては1部1,000円で買って頂こうかと思っています。

それから最後になりますが、皆さんにお渡したチラシ、これは長年使っている遠友塾の募集チラシです。なぜこれをあげたかという、今札幌市それから近隣の市町村を含めて大体70か所にスタッフで手分けして配布しているものです。実は以前、特に区民センターでは、例えば区民センターが10か所あるとそのうちの3か所は置かしてくれなかったんです。「いや知らないからね。たくさんチラシ来るものだから」ってなるわけです。それに対しても長年取り組んできて、現在は札幌市の教育長名で関係各位に対して入学者募集パンフレットの配架要請文書が用意されているところまで来ています。最後にそういうこともやっているということをお伝えして、私の話を終わります。ありがとうございました。



「これは今の話をしておりますからね。昔の映画の話をしているんじゃないですよ。」

### 札幌遠友塾自主夜間中学の30年とこれから

—2022年4月札幌市立夜間中学校の開校を前にして—

くどう けいいち  
工藤 慶一

### (2) 北海道にはなぜ学べなかった人が多い?

- 過酷な戦後と開拓
  - 満州、樺太、南方諸島からの引揚と本州爆撃被害者移住による
  - 北海道の人口：1945年約352万→1951年約439万(現在：約530万)
- 病気(ポリオ等)
- 不登校と引きこもり(形式卒業者)
- 経済格差による困窮
- 無戸籍
- 外国から日本へ

### (3) 札幌遠友塾自主夜間中学の開校

① 1990年4月札幌市民会館にて授業開始

名前の由来は?

「札幌に来た月曜生」

### 釧路から通われたご夫婦

朝日新聞  
1997年1月30日

### I 札幌遠友塾30年のあゆみ

(1) 夜間中学の始まり(⇔戦争の惨禍と子どもたち)

- 1947年 6・3・3制教育制度開始と同時に開設(→大阪生野第二中学校)
- 1949年 未公表政府資料(長期欠席児童：736,620名→「幻の100万人」調査)

### (遠友塾での事例)

- 投票に行けない。
- 胆振東部地震で避難所へ行けなかった。
- 10万円のコロナ特別給付金の申請方法についての相談
- 国勢調査票の記入相談(教育欄)
  - 過去の調査票と本年の新調査票

### (3) 札幌遠友塾自主夜間中学の開校

② 忘れえぬ受講生

付帯資料：桑山さんの文章より

- 「覚えられない自分が情けなくて、自宅の窓から見える藻岩山に向かって、何度も涙を流しました。スタッフの横山さんに辞めようかと相談しました。「もう少し頑張ってください」と励まされて、気を取りなおしました。」

(めげようとする受講生を必死に支えるスタッフ)

### (4) 教室場所確保の苦しみと輪の広がり

- 札幌市民会館(1990/4⇒2007/3：耐震構造の問題で取り壊し)
- 札幌市教育文化会館(2007/4～)
- 北海道に夜間中学をつくる会(2007/5)設立
- 五項目要望書道と市に提出

- 遠友塾のような自主夜間中学に対する支援
- 全道にある自主夜間中学のセンター校の役割を果たす公立の夜間中学設置
- 小中学校への大人への受け入れ
- 自宅から出られない人達のための訪問教育の実施
- 市立病院とか区役所とか市役所に書いてある難しい漢字にひらがなをふる

### 札幌市教育委員会との交渉

北海道新聞 2008年5月22日



### 札幌市が教室提供

北海道新聞 2009年2月21日



### 教育機会確保法 抜粋

5 国、地方公共団体、教育機会の確保等に関する活動を行う民間の団体その他の関係者の密接な連携の下に行われるようにすること。(→第15条：協議会の設置)

(国の責務)  
第4条 国は、前条の基本理念にのっとり、教育機会の確保等に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(地方公共団体の責務)  
第5条 地方公共団体は、第3条の基本理念にのっとり、教育機会の確保等に関する施策について、国と協力しつつ、当該地域の状況に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(財政上の措置等)  
第6条 国及び地方公共団体は、教育機会の確保等に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

### (3)道教委主催の夜間中学等に関する協議会開催

- 第1回(2017/11) 第2回(2018/3)
- 第3回(2018/7)公立夜間中学のありかたの提言
- 第4回(2019/1)札幌市に公立夜間中学設置確認
- 第5回(2019/11) 第6回(2020.2)
- 第7回(2020/10)北海道における公立夜間中学校の設置に向けて提言

### (4)教室場所確保の苦しみと輪の広がり

- 札幌市立向陵中学校(2009/4~)
- コロナのため休塾(2020/3~7)
- 札幌市教育文化会館にて授業再開(2020/8~)
- 旭川(2008/4)と函館、釧路(2009/4)に自主夜間中学開校(交流会開催)



### (5)条件整備の取組の軌跡

- 札幌市に「義務教育を受ける機会が実質的に得られていない人々への就学保障を求める陳情書」  
→2008年1月文教委員会審議→継続審議となり3月末に廃案
- 国への意見書提出(北海道議会、札幌市議会)
- ① 2012年「義務教育等学習機会の充実に関する法整備を求める意見書」全国初  
→12月13日札幌市議会本会議採択・25日北海道議会本会議採択
- ② 2014年10月3日「義務教育未修者の実態把握と教育環境の整備を求める意見書」北海道議会本会議採択 全国唯一
- ③ 2014年11月6日「義務教育未修者の実態把握のため、国勢調査の教育項目の改善を求める意見書」全国唯一  
→札幌市議会本会議採択→10/6総務委員会で陳情全会一致可決

### II 札幌市に公立夜間中学校の開設(2022年4月)

○私たちの行動と札幌市の動き 2019年

- 2月:長谷川教育長 公立夜間中学設置検討答弁、中村文科省政務官視察
- 4月:市長選公約、札幌市教委に専任担当決定⇒毎週の打合せ開始
- 6月:札幌市補正予算事業 設置調査費300万円計上
- 9月:長谷川教育長2022年4月公立夜間中学開校答弁
- 10月:札幌遠友塾北海道新聞文化賞受賞通知
- ×夜間中学映画「こんばんはII」全国キャラバン札幌スタート

### 夜間中設置を求める意見書

北海道教育庁学校教育課 御中  
札幌市教育委員会 御中  
北海道に公立夜間中学のすみやかな設置を求める意見書

作成年月日 2018年1月16日

私は、北海道に公立の夜間中学をすみやかに設置すべく具体的な動きを促進することについて、以下の通り意見を述べます。

私は、札幌で小学六年生の9月に終戦となり、その後、義務教育は親と学ぶことはできず、夜間中学が早く早く開設されることを望みます。

### (5)条件整備の取組の軌跡

- 2016年9月7日 前川文科事務次官遠友塾視察
- 札幌市議会本会議「公立夜間中学校のすみやかな設置を求める陳情」採択  
2017年2月27日本会議(陳情第240号)→2月6日文教委員会で陳情全会一致可決


### ●教育機会確保法の成立

\* 国会・文科省等への働きかけは年表参照

(1)憲法第26条と教育機会確保法の条文(2016/12公布)

(2)文科省の諸通知と基本指針

### 札幌市が夜間中設置を表明 2019年2月



### ○私たちの行動と札幌市の動き

- 2019/12~2020/1:札幌市教委アンケート調査 遠友塾・若者支援総合センター・外国人・不登校支援組織が協力
- 2020/6~7:公立夜間中学の在り方検討会議(4回) 8名の委員の委員の1人として工藤は体験から発言。
- 札幌市は2021/3に基本計画発表の予定
- 詳しい内容・議事録は、下記札幌市教委HP

### 日本国憲法 抜粋(昭和21年11月3日公布)

第26条 すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。

2 すべて国民は、法律の定めるところにより、ほごするしじよに普通教育を受けさせる義務を負う。義務教育は、これを無償とする。

### 教育機会確保法 抜粋

(基本理念)  
第3条 教育機会の確保等に関する施策は、次に掲げる事項を基本理念として行われなければならない。……

4 義務教育の段階における普通教育に相当する教育を十分に受けていない者の意志を十分に尊重しつつ、その年齢又は国籍その他の置かれている事情にかかわらず、その能力に応じた教育を受ける機会が確保されるようにするとともに～

### ●北海道教育委員会への申入れ(第7回協議会にて)

- 札幌市公立夜間中学の各市町村間の経費分担と就学援助の調整
- 道立の夜間中学校を！(＝定時制・通信制高校に夜間中学校を！)
- 自主夜間中学との両輪で、北海道にさらなる公立夜間中学開設を！

### III 自主夜間中学の役割 (1)札幌遠友塾自主夜間中学の特色

- 全国の自主夜間中学では、ほぼ個別授業
- 札幌遠友塾は開校時100名近い受講生に20名位のスタッフ、一斉授業を中心に個別フォローを重ねる形態。
- 現在4クラス編成(1クラスは個別授業)、計約70名位の受講生にほぼ同数のスタッフがかわる現状にあるが、形態は変わらない。
- 各教科の授業内容、運営方法、受講生の個人々と向き合う姿勢などについて、共通のまな板に載せて真剣に議論し、問題点を改善できるなどのメリット。
- 30年もこうしたことを繰り返すと、あるべき姿に向かって変身をとげ続け、マンネリに陥る危険性が少ない。

### (1) 札幌遠友塾自主夜間中学の特色

- 明治27年 札幌遠友夜学校創設時、新渡戸稲造は札幌農学校の学生の中から「遠友になれる人」をスタッフに。
- 私たちは、この精神を「ともに生き、ともに学ぶ」と表現し、受講生とともにある姿勢を堅持したい。これから開設される公立夜間中学校にも生かしていきたい。
- 公立夜間中学設置後も常に「教育の原点」を発信する自主夜間中学は必要。
- また週1回だからこそ通学できるという人や、これから外に出ようとしている若い人の足慣らしにも。
- 更に教育において生起する、あらゆる事態に対応する、セーフティネットの最後の砦でありたい。

### (2) 札幌遠友塾の運営方法について

#### ③ 授業後のスタッフミーティング

- 授業終了後に教室他使用場所の掃除を全員で。
- その後15分程のミーティング。一人一人の受講生の様子や、良かったこと、反省すべき点を出し合い、次回に生かす。各クラスのミーティング報告は、一斉メール。

#### (具体例)

- 脳梗塞を患った受講生の左右どちらにスタッフが坐るかで、学習効果が違うこと等が分かった。
- ある年配の男性が授業の声が聞こえないと怒り出した。調べると高齢者難聴、無線機器を導入。各クラスで各々2名位使用する人がいることが分かったなど。

#### \* クラス役割分担項目

- クラスチーフ、サブチーフ、事務局会議メンバー
- はじめの会「会場準備」、全体会計の中のクラス会計、救護などの保健
- 受講生とスタッフへの電話連絡、「鍵」：玄関と教室等の解錠と施錠
- 受付(出席、退出チェック)、介助(車椅子階段補助)、清掃(クラス分担箇所、用具)
- 広報(内外PRとミーティング報告)・図書(図書原簿作成と貸出)・見学者受付

#### \* 事務局分担

- 代表、副代表、事務局長 会計、行事、文書、広報 会計監査

### おわりに

- 今年2020年度は札幌遠友塾30周年記念の年
- 記念事業として誌上交流会記録誌の作成。

### (2) 札幌遠友塾の運営方法について

#### ① 少ない授業時間数に対して

- 3学期進路相談で受講生の希望により、学年繰り返しや、卒業後の再入学も。
- 希望者には水曜以外の日中に補習授業、授業前に個別補習を行うことも。

#### ② 個別フォロークラスの必要性

- 初期「授業が分からない」と辞める人が年に1~2人。
- 2003年個別学習「じっくりコース」開設、2006年「じっくりクラス」として独立。
- 「じっくりクラス」の卒業時期は年数でなく、受講生本人の意思。
- 生活面の様々なフォローが必要となるケース(役所の手続きなど)。一斉クラスでも最大限の個別フォロー。

### (2) 札幌遠友塾の運営方法について

#### ④ 全スタッフミーティング

- 毎月第3土曜日の夜に、スタッフの全体会議を行い、あらゆる報告・相談・決定がなされる。
- 1週間前に事務局会議(代表・事務局長・クラスチーフ・教科チーフ・会計・広報の13名で構成)が行われ、全体会議への提案議題を決めてレジメを作成する。議長は事務局員の持ち回り。

### ⑤ 教科ミーティング・アンケート・学期末毎のクラスミーティング

#### ● 数学科

- 月2回の授業プリント検討会議。授業後のクラスミーティングの意見もふまえ、次回検討会議で報告反省。
- 3学期末には年間プリント集を用意
- 「新スタッフ説明会」には1年の反省と次年度計画も提出。

#### ● 全教科

- 11月アンケート調査、12月に結果をまとめ、各クラスミーティングで検討、教科ミーティングの内容を加えて、1月全体会議に報告し相談。
- (アンケートの結果例) 社会科の科目創設やスタッフのあり方を巡る激しいやりとりも
- 尚、学期毎のクラス報告と討論は新学期初めの全体会議。

ありがとうございました。

見学希望の方はぜひお出ください。

札幌遠友塾 工藤慶一

## 「多様な学びと夜間中学」

宇都宮大学国際学部夜間中学イベント2020/12/5-6

駒井 洋

### I 夜間中学の存在意義

- (1) 社会的弱者のエンパワーメント
- (2) 教育実践の真正性
- (3) 自己実現の場

### II 夜間中学の歴史

- (1) 戦後の夜間部の発足(大阪市立生野第二中学校夕間学級1947年)
- (2) 全国夜間中学研究会の発足(1954年)
- (3) 最大の危機—行政管理庁による廃止勧告(1966年)
- (4) 英雄タカノマサオの活動(1967年から)
- (5) 奈良で自主夜間中学(うどん学校1976年)はじまる
- (6) 日弁連への人権救済申立(2003年)
- (7) 教育機会確保法可決成立(2016年)

### III 今後の課題

- (1) 公定教育化の圧力をどうはねのけるか
- (2) ボランティア精神をどう醸成するか
- (3) 新渡日外国人への日本語教育の重要性

### 〈参考文献〉

『生きる 闘う 学ぶ』編集委員会編『生きる 闘う 学ぶ—関西夜間中学運動50年』解放出版社、2019年  
 大多和雅絵『戦後夜間中学校の歴史—学齢超過者の教育を受ける権利をめぐる』六花出版、2017年  
 川瀬俊治編『タカノマサオとは何か—夜間中学の革命児か、敗残者か』みずのわ出版、1998年  
 埼玉に夜間中学を作る会・川口自主夜間中学編『夜間中学と日本の教育の未来』東京シュレー出版、2018年  
 高野雅夫『“水平社宣言”への限りなき挑戦』解放出版社編『水平社宣言と私』解放出版社、1992年  
 学びリンク『全国夜間中学ガイド』学びリンク、2016年  
 宗景正『夜間中学の在日外国人』高文研、2005年

### ○駒井 洋

駒井でございます。どうぞよろしくお願いたします。田巻さんの研究会に数年間付き合っておりまして、今度は夜間中学についてのイベントをやるので「多様な学びと夜間中学」という題で何か喋れという話が来まして。私も好奇心が強い方ですから、田巻さんやそのほかお集まりの皆さんに少なくとも時間を無駄にしないと思われぬ程度にまで準備したつもりで、今日参りました。これからの話の大筋は、第一に夜間中学の存在意義、第二に夜間中学の歴史、第三に今後の課題です。

### 夜間中学校の存在意義

まず夜間中学の存在意義についてですが、私は夜間中学というのは3つのとても大切な存在意義を提供していると思います。

第一番目の存在意義は、ここに集まる人たちは社会的な弱者、しかも今お話し伺ったような社会的底辺そのものの弱

者が夜間中学に集中しているということです。それで、**そのような社会的弱者にいかに力を与えるか、エンパワメントするか、ということが夜間中学の大きな使命です。**

例えばどういう弱者がいるかという、ご飯も食べられないような貧乏人、それから子供のころ学校に行けず働きすぎて資格をはく奪された社会的弱者、あるいは色々事情があってこの現代社会で字が読めない非識字者、それから特に技能実習生という名目でだまされて日本に連れてこられ散々ひどい目に遭わされている新しく日本に渡ってきた外国人、新渡日外国人などがそうです。このような底辺層を夜間中学は何としてでも守り、そしてこの人たちに力を与える、そういう存在意義があるというのが第一番目です。



駒井洋は高野雅夫を強く意識した話をした

第二番目に、**教育実践というものが極めて真正なものだということです。**要するに公定教育では絶対に提供できないような教育実践を夜間中学は提供し続けています。これは大変なことだと思います。何でかという生徒たちの学習意欲の高さが半端ではありません。それからボランティアでこういう人たちを教えると決意した人たちの善意と正義感があります。学びたいという意欲と教える側の善意と正義感というものが重なっています。

私、田巻さんのこの前の研究会で教育の古典のペスタロッチとかルソーとかこういう大御所たちが教育の理想として一体何考えてたのかなということをご報告したのですけれども、まさに教育の古典的な論者たちが主張しているような真正な教育実践というものがここには見られます。したがって立身出世するために試験を受ける、その試験を受けるために勉強するというような公定教育の脱線気味の教育実践に比べて、ここには真正な教育実践があると思います。

夜間中学の第三番目の存在意義は、**生徒たちもここで教わって自己実現する可能性が非常に高まることにあります。**それはなぜかという、社会的弱者としてこれまで痛めつけられてきた失われた尊厳というものをこの学ぶ場で取り戻せることが1つです。もう1つは、ハンナ・アーレントという私の大好きな政治哲学者が、人と対話する時に人は本当に考えるようになると言っていますが、夜間中学にはともに苦労して人生を生きるそういう仲間がいます。夜間中学はまさに仲間との対話を可能にする場という意味で自己実現の可能性を有しています。

## 夜間中学校の歴史

それでは、今日の話の大筋の二番目の夜間中学の歴史に入ります。このような非常に独特な3つの特徴をもつ学校が一体どのように成立したかを考えると、それはまったくの偶然でした。、学校教育法施行令というものが終戦直後に施行されたときに、二部授業を行おうとするときに教育委員会に届けなければいけない文書に「二部授業を行うことができる」という一行が入りました。このために、避難所というか、尊い領域という意味で聖域というか、現代社会のアジールそのものが夜間中学という形で誕生しました。そののちも、宝物ともいいたいようなアジールがこれまで日本にずっと続いてきたのです。

まず、昼間働いていて学校に行けない貧乏人の子供たちのための初めての夜間部が大阪市立生野第二中学校夕間学級で、1947年に作られました。これが最初の夜間中学といわれております。それで、さっきお話がございました通り、1949年には未就学児が73万5千人いたというたいへんな記録が残っています。生野の夕間学級と似たような夜間中学、夜間部が敗戦から10年たった1955年には89校に達しました。これが数的には最高記録です。

次に、全国夜間中学研究会という今までずっと続いている大変な組織を、夜間中学の関係者が1954年につくりました。毎年勉強会もしっかりやり、しかるべき権利要求行動もやっているというのは大したものだと思います。こういう組織がよく続いたものだというのが私の感想です。学校にいけない昼間働くような未就学の子供たちを預かる夜間部の全盛

期にこの研究会が発足して、そしてそのまま時代の要求に応えながら今も活発に組織として活動しているということをはきわめて注目に値します。

夜間中学の歴史を1960年代なかばまでの第一期とそれ以降の第二期に区分したいのですが、それはどういうことかという、在日コリアンの中高齢者は別として、韓国と1965年に日韓条約を結んだことによって引き揚げ者が韓国から大量に帰国し、また1972年に日中国交が正常化され中国からも引き揚げ者が大量に帰国しはじめました。日本語の不自由な子供とか孫も一緒にどっと来はじめました。このように夜間中学が対象とする生徒の性格がガラッと変わりはじめた状況のなかで、1966年に夜間中学は最大の危機を迎えることとなります。もう戦後が終わって昼間働いて夜しか学校に来られない子供はぐーんと減ってるから、夜間中学なんていうものは無駄だからつぶしてしまえということを1966年に行政管理庁が勧告したのです。

ところがですね、ここで英雄**高野雅夫**という人が出てきますから、歴史はまったく面白い。高野雅夫さんの話についてはですね、川瀬俊治さんという人が『タカノマサオとは何か―夜間中学の革命児か、敗残者か』（みずのわ出版、1998年）という本を出していて、この本の中に高野雅夫に関する細かい年表が出ています。それからもう1つの文献は、解放出版社編『水平社宣言と私』（解放出版社、1992年）という本に高野雅夫が書いた論文「水平社宣言」への限りなき挑戦です。部落解放と夜間中学は同じレベルに立っている。部落解放は、この社会の最も弱者に置かれた人たちが、同情してもらわなくても、自分らの権利を勝ち取るという戦いだと、高野雅夫さんが水平社宣言に共鳴して熱っぽく書いています。

それで、英雄高野雅夫さんは1967年から夜間中学を新しく作り直すという運動を始めました。この方は1938年生れで私より2歳年上の方で、満州からの引き揚げ者で、私も満州からの引き揚げ者ですけど、父親が戦死したらしくて、満州から引き揚げてくる過程で母親とはぐれてしまいます。それで博多あたりで泥棒ややくざの手先となったりして散々悪をやりました。それから山谷に流れてきてそこで在日コリアンの中年の男性と巡り会って、その人から人間の尊厳を教わったと彼は言ってます。高野雅夫という名前もその在日コリアンが取り戻してくれました。

この在日コリアンと知り合ってから、高野雅夫は21歳の時に足立区の荒川九中夜間学級というところに入ります。そして24歳までそこで勉強して卒業します。それが高野雅夫のその後の人生を決定的に刻印することになったと思います。

そこに出了のが行政管理庁の夜間中学をつぶせという勧告ですから、高野雅夫はそれに本当に怒り狂ったわけです。それでどういう活動をしたかという、まず自主映画を作ったんですね。27歳の時に「夜間中学生」という自主映画を自分で作って、日本中を回って上映会を行いました。その時に夜間中学が自分の人生を立て直したということをもとに、いかに夜間中学が必要かということに至る所で説得して回ります。日本全国を回るというのは大変な行動力だと思います。こうして1969年に生まれたのが大阪市立天王寺中学校夜間部で、大阪市が高野雅夫の熱意に押されて作ったものと言えるでしょう。

この学校は、行政管理庁がやめろと勧告した夜間中学校とは全然違います。要するにさっき私が説明したような社会的弱者を全て引き受けるというそういう形の夜間中学が初めて生まれたわけで、これが大阪市立天王寺中学校夜間部という輝かしい夜間中学です。この話については、『生きる 闘う 学ぶ―関西夜間中学運動50年』という本が2019年に解放出版社から出ています。天王寺中学から関西の夜間中学運動が始まっているわけで、だからちょうど50年たったということです。

そのあと、こういう社会的弱者を救うための新しいタイプの夜間中学というのが、日本中の熱意あるボランティアの人たちやしっかり考えている人たちの力で作られ、全国に波及するようになりました。

最初の自主夜間中学と呼ばれているものが、奈良の奈良市でうまれた「**うどん学校**」で、1967年の話です。これはどういうものかという、大阪市の夜間中学が、大阪市内に住んでいる者以外は夜間中学に入れないという馬鹿な決定をして、奈良県に住んでいる夜間中学の生徒たちが排除されることになりました。それを見かねて立ち上がった奈良市民の人たちが作った学校です。校舎をどうするか、教える人をどうするかなど、大変なことは多かったと思いますが、しかし大阪に通えなくなった子供たちをとにかくなんとか世話しなければいけないと立ち上がりました。どうしてうどん学校と言われていたかという、借りた校舎の一階に食堂があって、そのの経営者と話を付けて儲けなしの実費でうどんを生徒たちに食べさせてあげることになり、いつの間にかうどん学校という名前が定着したということです。

高野雅夫さんは2009年に立教大学大学院特任教授に就任されています。だから立教の学生がこういう人から熱い話



を聞いたのは幸せではないかと思えます。それからもう1つ言いますけど、80歳になってお迎えが近い私よりも2歳年上ですから、高野雅夫はいたい生きてるのか死んでるのかえらい気になって、検索してみたところ死んだという記事はないからまだ生きてるんじゃないだろうか。そしたら私もあと二年は大丈夫ということになります(笑)。

先ほど触れた全国夜間中学研究会が日本弁護士連合会に対して人権の救済の申し立てを2003年に行いました。それで日本弁護士連合会も非常にこれを重視して2006年に国に対して大きな運動をしました。このような動きが下支えとなって、教育機会確保法というのが2016年の暮れに国会で可決成立し、2017年から施行されました。これがはじめて夜間中学というものの存在をオフィシャルに認め、しかもその設立を義務として定めたということで、教育機会確保法というものは非常に大きな意味を持っていると思います。

先ほどの映像で前川喜平さんの講演の話がありましたけれども、埼玉に夜間中学をつくる会・川口自主夜間中学編『夜間中学と日本の教育の未来』(東京シュレー出版、2018年)という本には前川さんが話された講演内容が収録されています。私は筑波大学時代に文科省の目の敵にされてとかく罵られ叱られた経験があり、嫌な雰囲気役所だから文科省とは闘う以外ありえないと思い込んでいました。そんな文科省の事務次官として、前川さんのような実にいい仕事の方がよく生きてこられたと思いますね。だから、こんなのは日本社会のためにならないとかいって、そこら辺の悪が前川さんの足を引っ張って事務次官を辞めさせたのではないかというのが今の私の推測です。

学びリンクの『全国夜間中学ガイド』(学びリンク、2016年)という書物があります。この本には文部科学大臣として2016年の教育機会確保法を作った馳浩という人の話が出てきます。この政治家が夜間中学というものをどのように考えていたかということがよくわかります。2016年の教育機会確保法というのは、政治家の馳浩と文部官僚の前川喜平との気分がまったくびた一つと合致したあげく、想像もつかないような法律が生まれたんじゃないかと思えます。

#### 今後の課題

最後に、大筋の三番目の今後の課題というところに行きます。

結局前川元事務次官も盛んに強調していますが、**夜間中学の良さは柔軟性が確保できるということにあります。**だから文科省のカリキュラムの縛りを跳ね返して柔軟な真正の教育ができる可能性があるわけで、なんとか夜間中学は縛らないよう



関西夜間中学50年のあゆみが全517ページでつづられている



馳浩は「なくて良いのか?」と問いかけている

にしたいということを前川喜平は言っています。それについては、夜間中学の教育課程を柔軟に編成できる特例制度というのを文科省が発表しまして、これが2017年に制度化されています。公立だろうと自主だろうと公定教育に縛られない柔軟な教育ができるという条件が確保されたというわけですね。

しかしさっきもお話が出ていた通り、都道府県の教育委員会あるいは各自治体の教育委員会というのは、頭の固いのが天下って教育長になったりしているという例が非常に多いので、なんとか卒にはめよう、公定教育に引き戻そうという発想が頭の中にインプットされているように私には思えます。だから夜間中学、自主夜間中学が公定教育の圧力をいかにねのけることができるかというのが第一の課題です。

つぎに、第二の課題の、**ボランティア精神をどう醸成するかということ**ですけれど、今、夜間中学をつくる会、夜間中学を育てる会という名称を課して公立の夜間中学を作ろうとしている組織が全国に10か所しかありません。教育機会確保法のもとで、都道府県レベルで公立夜間中学をひとつずつつくれと政府は言っていますが、それに対応できるボランティアの受け皿が都道府県レベルでは10か所しかないということですね。

それから、ボランティアで教える側には月給がついてくるわけではありません。特に自主夜間の場合はタダ働きですから、正義感と善意に燃えたボランティアをいかに確保できるかということは、なかなか厳しいところがあるように思いますね。これについては、高齢化社会で私みたいに80歳過ぎた高齢者も元気よく生きてますから、その活用を本格的に考えればボランティア不足も少しはカバーできるんじゃないかと思えます。

最後に、**新渡日外国人への日本語教育の重要性という第三の課題**です。技能実習生を脱走して変な働き場所を紹介されて搾取されてやっと生きていような社会的弱者にも、自主夜間中学が手を差し伸べなければなりません。特にこのコロナによって、失業したり収入を失ったりした外国人が日本中に現れ始めています。こういう人たちは、飛行機代が高いとか飛行機がないとかで帰国もできません。社会的弱者としてこの人たちが自主夜間中学に現れてくるのが目に見えています。生活の面倒をどうやって見るかという話になると、これは大変なことだと思いますね。コロナという未曾有の事態を背景にして、新渡日外国人と自主夜間中学との関係についてはこれから大ごとになるのではないかと考えています。

夜間中学の歴史を読みとくと、まったく偶然の積み重ねで現在のようなアジールが成立してきたことは、生命の誕生とその進化と同じように奇跡に近いというのが私の印象です。夜間中学のような教育組織は、ペスタロッチを読んでも誰を読んでも欧米には出現しませんでした。これは日本独自の発展を遂げたものだといってよいように思います。

つけくわえれば、特に夜間中学の発展の転換点に歴史を変えた高野雅夫という英雄について、私は今回の報告を用意していてもものすごく興味をひかれました。これでわたしの話は終わりです。ご清聴ありがとうございました。

#### コメンテーター

##### ○石川朝子

こんにちは。下関市立大学の石川朝子です。田巻先生の科研の一員としてここでマイクをとらせていただいています。コメンテーターという大役を仰せつかり大変恐縮しております。僭越ながら、お話をお伺いし考えたことなどについて若干話をさせていただきたいと思えます。

私は大学院生時代を大阪で過ごしました。駒井先生のお話でも大阪のお話が出てきましたけれども、私は教育社会学が専門で、外国につながる子どもの教育に関する研究をこれまで続けてきました。大阪での研究調査を通して、「しんどい子どもを中心に据えた教育」という大阪の特徴的な学校文化・教員文化を目の当たりにしてきました。工藤さんにご講演の中で「昔の話ではない、今何とかしなければならぬ問題がたくさんある」とおっしゃっていましたが、大阪では、被差別部落の子どもたち、障害を持った子ども、外国人の子ども、無戸籍の子どもなど、学校に通っていても様々な理由で「しんどい」子どもたちがいます。貧困や家庭の環境で学びたくても学べない子どももいます。今では外国人の子どももしんどい状況となり学べなくなっています。学校に通えなくなったり、中退したりなど、コロナの影響も非常に大きいです。大阪ミナミの歓楽街に生きる外国ルーツの子どもたちの学修支援を行っている「Minami子ども教室」での取り組みや、「みんなの学校」で有名な大空小学校の取り組み、貧困に向き合う「西成高校」の取り組み、そしてコリアンタウンのある生野

区の小学校での「生きる教育」はニュースでも取り上げられ、「しんどい子」を中心にした教育を実践していることで有名です。全国でも、不登校の子どものためのオルタナティブスクールや居場所カフェの取り組み、定時制高校、そして夜間中学校など、数え切れないほどのしんどい子に寄り添った教育実践が行われています。

様々な背景で学びから遠ざけられる子どもや大人が今でもいます。そこで、先生方のお話にも2016年12月に成立した、教育機会確保法についての話に移りたいと思います。この成立は、学校教育関係者のみならず、多くの教育支援者や学びの場に通う学習者を大いに勇気づけるものとなったと思います。工藤さんが、基礎教育保障学研究第2号にお書きになった文章を拝読しました。そこでは、教育機会確保法の成立について「全国夜間中学校研究会の第1回京都大会での法制部決議から、実に62年の歳月が立っていた」と書かれています。実に長い間取り組みを続けてこられ、そして国に対する意見提出を根気強く行われてきた結果だと思えます。改めて、全国の夜間中学校や自主夜間中学のこれまでの活動の影響の大きさについて理解することができました。

教育機会確保法成立過程で明らかにされてきたことは、これまでの教育から取りこぼされてきた人がいる／いたという事実です。なぜこれまで学びから取り残される方々がこんなにも多くいたのか、またなぜそのサポートをボランティアの方をお願いしてきたのか。国際的な人権の基準に照らせば、今になってやっとかという感じもします。

教育機会確保法ができ、年齢または国籍などに関係なく教育を受ける機会が保障され、またそのことについての国や地方自治体の責任が明文化されたことは大きいことだと思っています。ボランティアに頼り切っていた実践のあり方から、国や都道府県がこれからの公正な教育に向けて責任を持って行っていくということに安心する一方で、やはりこれまでの教育制度や学校システムにおける「排除と包摂」（誰が包摂され、誰が排除されてきたのか。どのように包摂していくか）についてより一層の研究を深めていく必要があると思っています。工藤さんのご発表では病気や不登校・引きこもり、形式卒業者、経済格差による困窮、無戸籍、外国から日本へきた人が排除されてきたと話されました。また、駒井先生は社会的弱者という表現をされました。いわゆる様々な背景を持った「しんどい」人々が学びから取りこぼされてきたということができると思えます。

社会構造的にマイノリティや弱者として位置付けられている人々は、しんどさの重層性・複層性を有していると言われています。例えば、外国につながる人々は、同時に貧困の問題も抱えていると言った様なことです。このことから、教育の専門家だけではなく、社会学、心理学、言語学、社会福祉などの研究者、そして、本日参加されていらっしゃる学校関係者や工藤さんの様に実践をされている活動家の皆さんと一緒に、複層的・重層的な課題について、今後も引き続き検討していく必要があると思っています。

学びや教育は生きていく上で必要です。夜間中学校が全国に、そして栃木県に早く設立されることを期待しています。本日・明日とたくさんのことを学び考えたいと思います。ありがとうございました。

### ○小波津ホセ

私は小波津ホセです。私の方からは五分ほどコメントをさせていただきます。私がお話しすることは3点ございまして、一つ目が多様な学びや多文化共生に絡めた話になります。二点目は外国人の方が夜間中学校ないし自主夜間中学校に参加することについてです。三つめは二番目に関連はしてきますが、支援方法や取り組み方について私がお話の駒井先生や工藤さんのお話を聞かせていただいて感じたことを少し述べさせていただきます。

最初の多様な社会についてですが、例えば多様な社会の中で私のバックグラウンド、私はペルー出身ですが、日本をペルーという国の歴史的背景と比較したときに日本の社会の中で今回の夜間中学や自主夜間中学が誕生した背景というのは国内ないし各地域における社会的に勉強ができない、またはそこから排除されてしまったような人が夜間中学ないし自主夜間中学に流れていってしまうことが目立ちます。そこで支援を受けて社会進出を成し遂げていくという経緯があったりするのですが、例えばペルーの方が受け入れやすい体制であると感じました。社会的に排除されてしまう人はおそらくどの国においてもいると思いますが、ただペルーの場合は排除された人に対する支援の仕方、学ぶ意識が日本と比較したときに一定の支援体制があると感じています。

その背景を考えてみるとやはりペルーの場合は100年200年前から多様な人種を受け入れてきてかつペルー国内に

おいても貧困層または山岳地帯から大都市に流れてくる人の移動が頻繁に行われていて、そういう人たちを大都市で受け入れていく、または受け入れざるを得なくなった場合の社会的学習の保障体制が日本と比較した際に整備が進んでいるという印象を非常に受けています。

一方で、日本の場合は戦後という世代的にも年代的にも比較的近代的な背景の中で設立して今後の支援体制を検討していく段階である印象を私は非常に受けていて、行政または誰がどのような支援をするのかという模索段階でトップダウンよりもボトムアップという支援方法が大事になっていると感じます。そのため、このような側面においてはもしかしたらペルーの方が進んでいるのかと感じる部分もあります。

別な事例を挙げると、例えば2008年にリーマンショックが起こって日本に住んでいたペルーにルーツのある子どもがペルーに帰国した際に学習する場所として最初に思い浮かぶのが日系人学校への編入です。その際、日系人学校はスペイン語の授業、カウンセラーをつける、学校と親の連携を構築して子どもが学校で生活しやすい環境整備を行い支援体制から漏れないようにしていました。もし日系人学校への編入が経済的に不可能であったら現地校に通う、現地校に馴染めなかったら宗教系の学校に通う、それでも難しい場合には非認可校へと通う段階的な支援があり、子どもが排除されない支援体制が構築されています。しかし、日本の場合は義務教育から排除されたら家に引きこもる、または勉強も何もしないことになってしまう現実があります。そのため、このようなシンポジウムを通じて夜間中学や自主夜間中学について広く普及させて子ども等を受入れる体制が進めばと思います。

また、日本における自主夜間中学、公立の夜間中学での外国人の参加でどのような外国人がいるのかと考えたときに、歴史的にみて50年代60年代は在日の方が教育の機会を剥奪され、さきほど石川先生がおっしゃっていたように「排除」されたため学びの場を取り戻すために通っていたのですが、近年はそのような在日の方は少ないと思います。駒井先生がおっしゃっていたように、現在、新渡日外国人の方々が入るような体制にはなりつつあると思いますが、問題もあります。例えば、夜間中学で学べるビザがないことが考えられます。また、かれらは自国で学ぶ機会を剥奪されたわけではなく、仕事を求めての来日であり、夜間中学を必要とする新渡日外国人は日本の学齢期や高校から排除されてしまったような人で今後大きな現象になるのではないかと考えています。それに伴いかれらに対してどのような支援が必要かを考えたときに、明らかに日本で教育の機会を奪われて勉強ができなかった人とは異なります。日本で教育の機会を奪われた人は、習得できなかった内容を夜間中学で学ぶのに対して、新渡日外国人の子どもは習得できなかった内容と日本で生活するうえで喪失した内容を取り戻す段階が必要になります。喪失した内容とは、例えば、自国の言語や文化であり、維持または再習得する機会も踏まえなければならないと考えています。

私自身先月からセーブ・ザ・チルドレンから一年間の助成を受けて学習支援を始めました。支援の目的は、コロナ禍で学ぶ機会または困窮状況にある子どもの学習支援ですが、参加している子どもは先ほどの動画に登場した方々と比較すると学ぶ意欲がさほど高くなく、勉強する習慣が定着していません。かれらには学習方法や学習の定着が身につけていないことが現状としてあります。そのためかれらへの支援は容易ではなく、もし夜間中学校へと流れてしまったら支援方法が非常に困難となるでしょう。動画に登場した人とのやる気の差もそうだが、子どもの文化的背景を踏まえた支援方法を構築していくことが今後の課題の1つとしてあると思います。もし日本社会が今後も外国人を受け入れる体制を整っていくのであれば、このような点も踏まえていかなければなりません。単純に日本語としての教科だけではなくかれらの将来展望を踏まえたことも明確にしなければならいとも思いました。以上となります。

## 第二部 公立夜間中学の今

### ○桜井克典

#### 「尼崎市成良中学校琴城分校」

皆さんこんにちは。失礼いたします。先ほどご紹介頂きました昨年度末まで兵庫県尼崎市立の公立夜間中学校で教員をしておりました桜井と申します。

公立の学校には何年かしたら異動しなあかんというルールがありまして、今年度、私は普通の昼間の学校に異動をして

おります。今日は、公立の夜間中学校の現状をということでお話をさせて頂きます。私ともう1人、関東の方で、公立夜間中学校の教員をされている大西先生と2人で話をさせて頂くということになっております。関東と関西の公立の夜間中学の運営の仕方はかなり違います。実は私は大西先生とは元々面識がなかったんです。今回田巻さんのご紹介で、10日ほど前に初めてZoomで会話をさせて頂きました。その時にいろんな違いのことについてお話をさせて頂いていると、この話を皆さんに聞いてもらたほうが面白いんじゃないかということで、急遽主催者側さんに無理なお願いをしまして、それぞれの学校の説明を短くして、その後の掛け合いをさせて頂こうという形にさせて頂きました。その中から、公立夜間中学校と自主夜間中学の違いや課題等が見えてくるのではないかなと思っています。



桜井克典は特に関西の公立夜間中学について話した

イントネーションが大阪弁すぎてちょっとわかりにくいということがあるかもしれませんが、何卒ご容赦願えればと思っております。

これが、文科省が出している公立夜間中学校の設置の地図です。全国に、関東と関西、それから広島に2校ある。これだけしかないということがこれを見てわかるかと思えます。これを見るとちょっと誤解をされてしまうんですね。2022年4月に先ほど素晴らしい札幌市立の夜間中学校が開校されるという話になっていますね。ですが、開校されるのは札幌市であるのにこのままの地図でいくと北海道全部に色を塗られてしまうのではないかと、ということです。

私がおります兵庫県も、実際に公立夜間中学校があるのはこの地図という右下の神戸と尼崎という街だけです。日本海側や淡路島には夜間中学はございません。そこから実際に通えるかということなかなか厳しい。これが関東の地図なんですけれども、関東平野の中で夜間中学が存在しているところというのは、本当に東京のエリアとあとぼつぼつとあるだけ、ということがわかってくると思います。これは関西です。同じく、関西の日本海側と南半分には全くございません。このグラフは、全夜中研という、全国夜間中学校研究会が毎年作成しているもので、棒グラフが、全国に設置されている公立夜間中学校の数です。折れ線グラフがその生徒数。左側が1947年、右側が2019年のものとなっております。先ほどお話

ありましたが、戦後しばらくして89校の公立夜間中学校が確認されています。その後どんと減っています。そこからですね、こちら辺で夜間中学の質が変わります。それまでは昼間に学校に通えていない学齢期の子もたちを受け入れていた実態があります。ところがここからずっと、夜間中学校数は安定しているんですけど、こちら辺からは学齢期を超えた人達しか入学を認めていません。これは今でもそうです。それで生徒数は今までずっと減少してます。ここで2019年に新たな夜間中学が2校誕生しました。やはりこれは教育機会確保法が出来た大きな影響ではないかなと思っております。

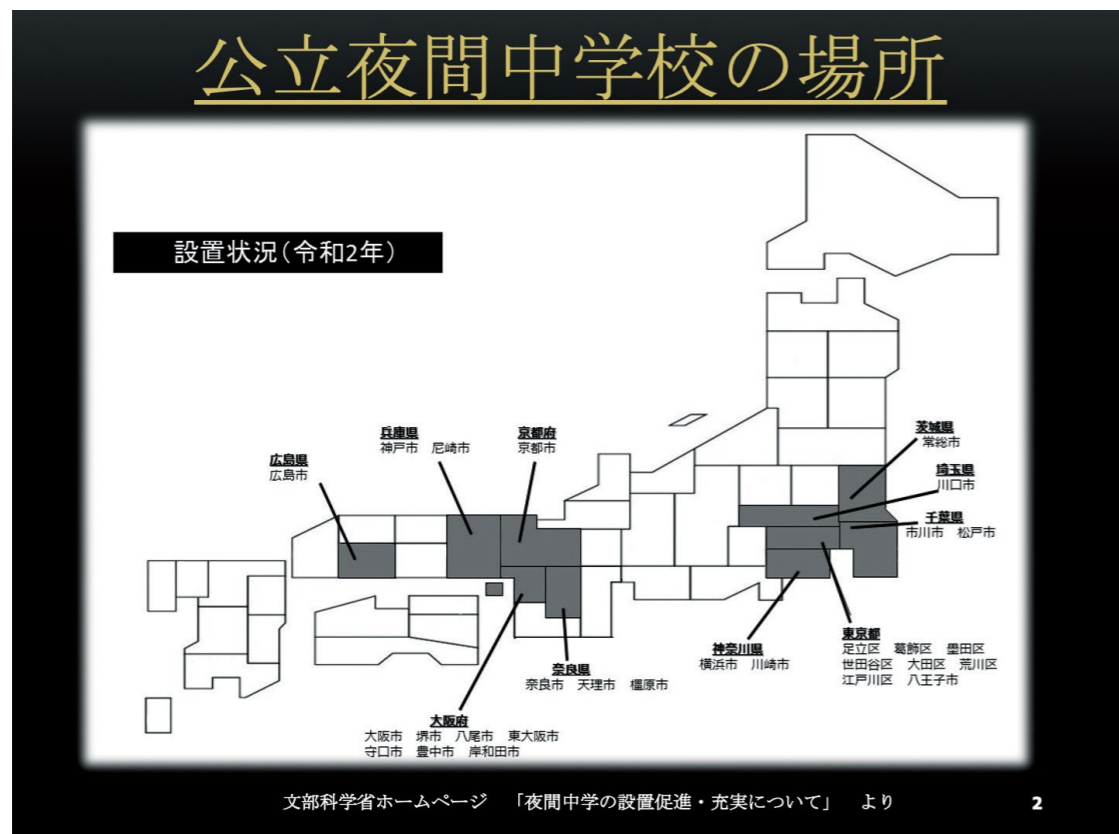


法的位置付けは先程も出てきましたけれども、学校教育法施行令25条の中に「2部授業を行うことができる」この1文だけなんです。学校教育法施行規則の第9条に「2部授業実施の届出の手続き」、たったこの1文が、夜間中学校の法令上の根拠となっています。ということは、法令上はどこの市町村も2部授業にするかどうかを決定出来る仕組み持ってるんですわ。ただし設置義務がないので、いくら義務教育未修了者がその市町村内に住んでいてもすぐには設置されへん。こういう課題があるんですよ。法的にたった1文だけなので、どうということになるかということ、制度の狭間で、あくまでも行政がそんな学校があることに目瞑って黙認してた。こんな実態やったんです。教育機会確保法が出来て風向きがかなり変わりましたが、それまでは本当に黙認状態でした。法律が曖昧ですから設置自治体によって、かなりの制度的な違いがあります。

例えば、先程から出てきた市立と区立、東京の23区内は区立になります。今のところ都道府県立というのはありません。今度の春に徳島県と高知県が初めての県立夜間中学校を作ります。それから設置形態は、「中学校夜間学級」、これが圧倒的に多いですね。兵庫県の場合は昔から「分校」方式を採っております。そして、今度札幌に出来るという単独校。この単独校というのは一昨日のニュースを聞いて、慌てて付け加えました。あんまりにも素晴らしい。教員の配置についてはそれぞれ公立の学校ですから定数があります。養護教諭どないなってんの？ 事務職員どないなってんの？ いろんな問題があります。在籍の上限はいったい何年なの？ 中学校やから3年で卒業ちゃうの？ 小学校1年生に行っていない人が夜に毎日4時間通って3年間通ったら中学校3年生の教科書読めるようになるのか。そういう大きな課題が残りますよね。入学要件はいったいどうなってんの？ 入学要件はそれぞれの自治体が決めています。その在住者のみなの？ 在勤者は認めるの？ 広域自治体の枠内で自由に通えるようになるの？ そういった課題もあります。遠距離の通学の場合はいったいどうするの？ その交通費は、いったい誰が払うの？ っていう話ですよ。義務教育の公立校なのに定員を言いつく学校が出てきたんですよ。最近よくこの話題が出てきています。

尼崎市も実はそういう課題があるんですよ。入学者は在住者と在勤者のみしか認めていなかったんです。ところがいろんな運動の成果で、ようやく来年の春から、尼崎市とは全く直接関係のない県内の人も受け入れるような方向で整備の話がまとまりつつあります。でも、定員切りの話もされてます。これちょっとおかしいやろって。なんで公立の義務教育に定員があるんって。溢れたら溢れたで、こんだけ人数あるんやったら新しい学校作るっていう発想にならんのかいなって、思うんですよ。そういうこと考えたら、いったいつになったら誰でもいつでも学べる学校になるんか、これはやっぱり問い続けていかないといけないと思います。

先程も出てきた年限の問題。ちなみに神戸市は3年です。同じ兵庫県で、たった電車で20分の距離の尼崎市はほぼ9年。



大阪府内も9年。奈良県の橿原市は12年。奈良県の公立夜間中学校設置市は、比較的在籍の上限が長いところが多いです。

居住地入学制限の話ですが、今、尼崎市では、なんとか他の県内のいろんな人が入れるように、調整を図っています。隣の大阪はずっと前からこの市や町に住んでようが大阪府内であれば通える。ただ近年は府外の人は入れてなかった。大阪府の場合は、去年から他府県民も相談に応じるという柔軟な姿勢に変わってきています。

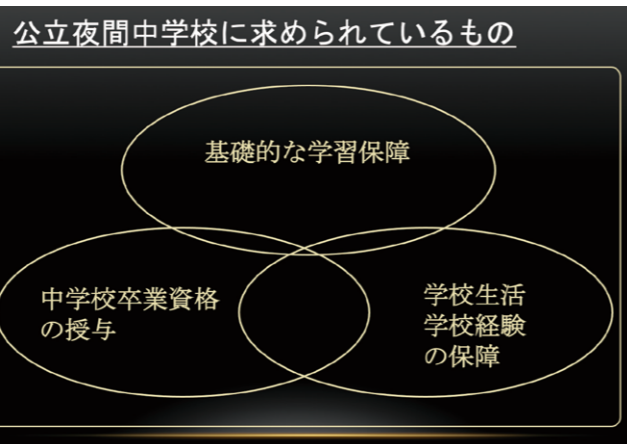
就学援助。これ先程も話が出てました。生活に困窮されてる方が実は多い。生活に困窮されてる方の場合、昼間の学校では「就学援助」という制度がある。法律用語で、「経済的理由によって、就学困難と認められる学齢児童又は学齢生徒の保護者に対して…」という文言がある。夜間中学生は、学齢児童とか学齢生徒とは違いますよね。その保護者とも違いますよね。本人です。じゃあその本人に対して就学に必要な援助を与えなければならない。尼崎の場合は、「これは規定に外れているから、支給しません」と言うてます。大阪府の場合は6年から9年。これ何で差があるかという、居住市町村が負担することになってますから、自治体によってその制度は違うわけですね。で、神戸は3年間しか保障していません。

じゃあ、公立夜間中学に求められているものってなんなんって。和歌山信愛大学の江口玲先生は、『和歌山信愛大学教育学部紀要 第1巻』に掲載されている「教育機会確保法制定後の夜間中学を巡る動向と課題」という論文の中で、こう言われています。大きく分類すると、公立夜間中学校で学ぶ目的はこんな感じかなと。私もそう思います。1つは「**中学校卒業資格の取得**」。これは自主夜間中との大きな違いですね。公立学校としてきちり対外的に有効な卒業証書を発行することが出来ます。ですので、この資格を求めて遠路はるばる通われる方もいます。さっき桜井は、尼崎市は在任、在勤やって言ったじゃないですか。確かに尼崎市内在住でも在勤でもない生徒が過去に居られました。さらに以前、約40年以上前は、尼崎に夜間中学は無かった。では、尼崎市在住の夜間中学校入学希望者は、どうしてたのか。大阪の夜間中学に入れてもらってはったんですよ。その時は大阪でお世話になりながら、尼崎に夜間中学校が出来た後、尼崎市在住者・在勤者以外は受け入れませんか、それは無いやろと。過去の経緯と人権的配慮から、尼崎でも黙認されて来たんですよ。

私は去年まで担任してましたが、ある生徒さんは篠山という山の中の町から2時間かけて通って来られてました。ただ、公立の夜間中学校ですから毎日授業があるわけです。2時間掛けて夜9時の授業終えて家に帰ると11時。しかもその方は40歳後半で家の家計を支えてはるんです。仕事をしなあかん訳ですよ。毎晩11時に帰ってって、無理ですよ。翌朝は早朝より仕事ですし…。往復の交通費だって3,500円から4,000円を毎日払えんのか、と。公立の夜間中学校なので通学定期は認められてはいますけど。しかも、電車の通学定期にするとガクンと費用は下がるんやけど、バス代はそんなに下がりにません。毎日通われへんのに、通学定期を買うわけにはいかない。篠山市はそういった事例がなかったので、そういう事情がある生徒に対して通学定期を保障するという制度はありませんから自腹です。定期券を買おうとは思えなかったそうです。残念ながら今は、ずっと休学をされています。夫が基礎疾患をお持ちで万が一感染すると非常に危ないということで。そんな彼女がなぜ通っていたのか、自分の仕事のために必要だからと片道2時間掛けて来ていたんです。ここでの中学校卒業資格が必要だったから。

それから、「**基礎的な学習保障**」。これも、自主夜間中学に共通するところではないかと思えます。やっぱり、自分の名前が書けなかった、住所が書けなかった。だから銀行に行けなかった、だから市役所に行くのが怖かったんだと、そういった事案がたくさんあります。それと「**学校生活・学校経験の保障**」。これも、すごく喜ばれます。遠足で70代、80代の方連れて動物園行くんですわ。「これ本当に楽しいよ先生。」って。幼稚園ちゃいます、小学校ちゃいます。動物園に行くんです。それが楽しいって言うんですよ。江口先生が整理された「中学校卒業資格の授与」、「基礎的な学習保障」、「学校生活・学校経験の保障」、僕たちもお互いに関連しているのかなって思います。

それではここで関東の夜間中学の実態について、お話を頂けたらと思います。



## 公立夜間中学の今

公立・自主夜間中学の社会的意義と課題を考える集い  
2020.12.05/06

## 公立夜間中学校の場所

設置状況(令和2年)

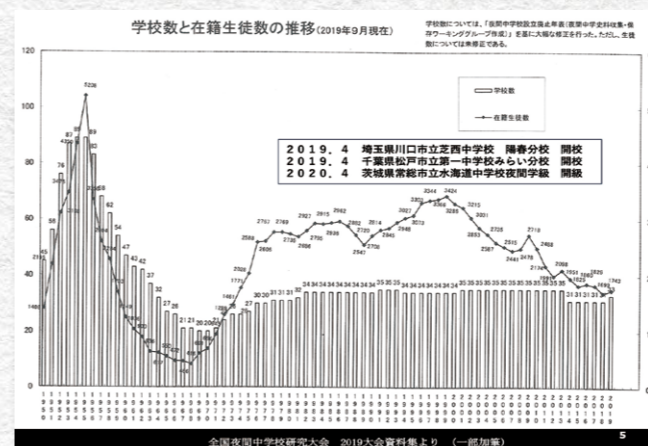
文部科学省ホームページ「夜間中学の設置促進・充実について」より

## 関東の公立夜間中学校の場所

東京……8校  
神奈川……2校  
千葉……2校  
埼玉……1校  
茨城……1校

## 近畿の公立夜間中学校の場所

大阪……11校  
兵庫……3校  
京都……1校  
奈良……3校



## 公立夜間中学校の法的位置付け

- 学校教育法施行令25条  
市(特別区を含む)町村教育委員会から都道府県教育委員会への届出事項  
4 分校を設置し、又は廃止しようとするとき  
5 二部授業を行うおとすとき
- 学校教育法施行規則  
第7条「分校の設置についての認可 申請または届け出手続き」  
第9条「二部授業実施の届出手続き」

これが1947年以来  
夜間中学の法令上の根拠とされている。

法令上は、市町村教育委員会の裁量により、二部授業を実施するかどうかについて決定できる仕組みとなっている。

逆にいえば、市町村には設置義務がないので、いくら義務教育未修了者がいたとしても、容易には設置されない。

## 公立夜間中学校の法的位置付け

### 教育機会確保法

夜間等において授業を行う学校における就学の機会の提供等  
第14条・第15条

(就学の機会の提供等)  
第14条  
地方公共団体は、学齢期を経過した者であって学校における就学の機会が提供されなかったもののうちにその機会の提供を希望する者が多く存在することを踏まえ、  
夜間その他特別な時間において授業を行う学校における就学の機会の提供その他の必要な措置を講ずるものとする。

宇都宮市も栃木県も

## 公立夜間中学校の法的位置付け

誰でも、いつでも、学べる学校なのか?

義務教育の公立校で定員?

設置主体は?

教員は? 義議教諭? 事務職? ...

在籍の上限は 3年? 9年? 12年? 期限を定めない? ...

入学要件 在住者? 在勤者? 広域自治体の枠内? ...

就学援助制度 昼の中学校に準ずる? 支給範囲は? 期間は? ...

### 兵庫県の『分校』方式

(川口・松戸も2019開校)

2018年度まで、国の夜間中学31校のうち、**兵庫県3校のみが『分校』方式**で従来からの他都府県は、『夜間学級』として開設。

分校であるために1つの学校として教員が配置され、「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」の教職員定数により、少人数になっても、教頭及び教諭の合計として8人が配置されている。  
(神戸市は市費負担で養護教諭と事務職員を配置 尼崎市は2020年度より県費単独負担で配置)

夜間学級という位置づけであれば、生徒数が減少すれば、教員数も減少することになり、全9教科にわたる保障が難しくなる。従って、多くの学校では、非常勤講師を雇用して対応している。

2019年度開校の、川口市立・松戸市立の夜間中学校も、**陽春分校・みらい分校**として開設。学校の場所の問題、学校設置場所の番地。

茨城県常総市は、**水海道中学校夜間学級**として開設。

### 公立夜間中学校の現状と課題①

## 夜間中学の修業年限は…

夜間中学は中学校の2部授業なので、**3年間**しか、在籍年限は各市バラバラ…

神戸市…3年  
尼崎市…9年  
大阪府内…9年  
樺原市…12年

文部科学省 夜間中学の設置・充実に向けて【手引】より

### 尼崎市立成良中学校琴城分校について

現在は、  
1年生…2人 2年生…2人 3年生…27人  
1年目…3人 2年目…4人 3年目…7人  
4～6年目…13人 7～9年目…2人 10年目以上…2人

### 特徴的な聴講生制度

日本籍生徒と朝鮮韓国籍の漸減、中国帰国者の急増と減少、ネパール国籍の若年層生徒の急増形式卒業者は、微増。

宗景 正 写真集「夜間中学の在日外国人」より

### 尼崎市立成良中学校琴城分校について

各学年1クラス 計3クラス  
日本語の習熟度による5クラス運用

- 日本語初級1
- 日本語初級2
- 日本語初中級(進学も視野に…)
- 識字1(主に小学校の学習内容)
- 識字2(主に小学校から中学校の学習内容)

給食は、パンと牛乳の補食給食

### 公立夜間中学校の現状と課題②

## 夜間中学の居住地による入学要件は…

京都市 市内在住者のみ  
尼崎市・神戸市 市内在住者・在勤者のみ  
(神戸市は2019年まで在住者のみ)  
大阪府内 府内在住者

大阪府は、府教委が以前より、各市町村と調整をはかり、希望する夜間中学に就学することができる。  
(大阪府の広報に夜間中学の入学案内が掲載される。)

就学援助費は、居住市が負担する。

…大阪府は、2019年度より府外在住者にも相談に応じる  
(現在、兵庫県内在住者も大阪府内の夜間中学校へ通学)

奈良県内 県内在住者 …ただし在住市町村教委の副申が必要

奈良県は、未設置市町村と設置市が協定書进行、経費負担

### 公立夜間中学校の現状と課題③

## 夜間中学の就学援助は…

- 大阪府内…支給(6年間または9年間) 就学援助費は、居住市が負担する。
- 神戸市…支給(3年間)
- 尼崎市…不支給

西宮・伊丹・宝塚・川西・芦屋…3年間のみ就学助成制度あり

「経済的理由によって、就学困難と認められる学齢児童又は学齢生徒の保護者に対しては、市町村は必要な援助を与えなければならない。」  
(学校教育法 第19条)

### 尼崎市立成良中学校琴城分校の場所と交通機関

		月	火	水	木	金
1	17:30	体育	数学	音楽	選択	創作
	18:10					
2	18:15	総合	理科	社会	日本語	日本語
	18:55					
18:55～19:15 給食						
3	19:15	日本語	日本語	日本語	日本語	日本語
	19:55					
4	20:00	日本語	日本語	日本語	数学	選択
	20:40					

兵庫県教育委員会発行 小学校教育資料「はばえみ」(高学年用/2013年3月) 「学ぶ」ということより

### 公立夜間中学校に求められているもの

基礎的な学習保障  
中学校卒業資格の授与  
学校生活 学校経験の保障

教育機会確保法制定後の夜間中学を巡る動向と課題  
(2020 江口 裕 和歌山信愛大学教育学部紀要 第1巻) 13

### 近畿地方の夜間学級

大阪府…11校  
/兵庫県…3校  
/京都府…1校  
/奈良県…3校 計18校

9月現在の合計在籍数  
大阪府…897人/兵庫県…79人/京都府…25人/奈良…136人 計1137人

学校に在籍できる年限は、各校により差があるが…  
近畿18校が「近畿夜間中学校連絡協議会」に参加  
また多くの夜間中学校の生徒会が「近畿夜間中学校生徒会連合会」に加盟

### 琴城分校の教育課程

「琴城分校 日本語で育てたい力6項目」(2013年度策定)

- ①語彙力、文法の力
- ②対人交流の力
- ③読解力
- ④表現力
- ⑤社会認識
- ⑥自己有用感の獲得

2018年度より、⑤⑥は、教科「日本語」としてだけでなく、「琴城分校」として育てたい力と確認。

夜間中学校の教員として、「日本語」力を、どうとらえるのか

## 学ぶということ

夜間中学・識字学級で取り戻してきたもの

### 奪われてきた文字

自らの生い立ちに誇りを持ち、自己実現できる生き方を取り戻す

### 人生が変わる学びを 夢を抱ける学びを

### 近畿地方の夜間学級

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、近夜中協・近夜中生徒会連合会の行事は、中止相次ぐ。

- 5月…新入生歓迎会・生徒会連合会総会
- 10月…連合運動会
- 2月…連合作品展・生徒会連合会総会
- 3月…統一募集活動

### 尼崎市立成良中学校琴城分校について

1976年 尼崎市立城内中学校琴城分校 市立教育研究所内に開校  
1977年 市立教育研究所内から尼崎市立城内小学校北校舎内に移転  
1986年 生徒不在の卒業式  
1994年 在籍の上限緩和  
1995年 阪神・淡路大震災により尼崎市立城内高等学校校舎内に移転  
1998年 尼崎市立城内小学校新校舎内に移転  
2003年 尼崎市立城内小学校内から 明城児童ホーム・明城こどもクラブ併設施設に移転  
2005年 尼崎市立成良中学校琴城分校に校名を変更  
2020年 4月 尼崎市立文化財取蔵庫1階新校舎に移転

近隣市 就学助成金制度設立

## 学ぶということ

### 「非識字者」を生み出してきた背景

### 識字学級に参加

- ・読み書き能力
- ・自らの社会的立場の自覚
- ・自らを尊敬できる存在として自覚

…社会への参加と人権の確立

## お疲れさまでした

個人情報**は秘密厳守**ですが、  
**夜間中学校のことは 発信してください**

お願い致します

## ○大西深雪

### 「東京都葛飾区双葉中学校夜間学級」

どうも初めまして。大西深雪と申します。葛飾区立双葉中学校で日本語と英語を担当しております。実は私、今年夜間中学に採用されました。まだ1年目で、東京に来て8ヶ月経ったところです。もともとは大阪の者なので、大阪弁で言うかもしれません。

新参者の私がなぜ、夜間中学のことを強く語りたかと思ったかというのを、今から説明させて頂きたいと思うんですけど、まず、私について、お前誰やねん、ということで自分のことをちょっと話させて頂きたいと思います。私、実は2年前までアメリカに行っていました。私は就職氷河期ど真ん中の時期に卒業でした。大学がたまたま、教員を目指していたわけでは無かったんですけども、たまたま養護学校で。当時はまだ養護学校と言ってましたけれど、それがきっかけで特別支援をやりたいと思いまして。まあ、社会はやはりおかしいなとずっと思っていて、それでアメリカにぼんやり行ってまえということで行っていたんですね。それから16年間過ごしてたんです。今回、私がなんで自分のことを言いたいのかっていうと、私もやっぱりアメリカで社会的弱者としていたからです。英語がわからないということから就職です。その部分で苦労したということと、あとVISAの問題とか、あともうすごく色んなこと。今の夜間中学に来ている新渡日の外国人が経験していること、私もほとんど全てアメリカで経験したということ、これを挙げさせて頂きました。で、2年前に帰国しまして、大阪府の支援学校に。私は元々発達障害のことをアメリカで勉強していましたので、まあそれをやろうと意気込んで帰ってきて、大阪に戻ったんですけど、採用試験、東京と大阪受けて、両方受かって東京に来たただそれだけのことなんですけども。たまたま夜間という場所に就職できまして、今までの苦労が全てまとまったというような学校に採用されて本当に感謝して毎日働いております。

ということで、私の自己紹介だったんですけど、私がいたのは、ミネソタ州というところまでございまして、とっても寒いところまでございます。何が言いたいかと言いますと、ミネソタっていうのはこのようなところなんですけども、移民ですね。移民がとて多くてですね、ソマリア人とかエチオピア人とか、難民も沢山来てまして。私、アメリカでも教員やってたものですから、そういう生徒達ともすごく関わってたということもあります。

本題に入ります。東京都の夜間学級についてです。都内に夜間学級は8校ありまして、その8校の中で日本語学級は5校で設置されています。私が勤めている双葉中はそのうちの1校です。2020年10月末の時点で8校合計の生徒数は232名ということになっています。まあ今、漸減しています。先程桜井先生も仰っていたんですけど、学校に在籍できる年数は、東京都の場合、原則3年間だと決まっています。そのうち、さらに日本語学級に在籍できる期間というのは原則1年という風に決まっています。実際の運用に当たっては、生徒の実態に即して行われます。ここはかなり、色々賛否があるところです。8校の夜間学級では連携をずっと取りながら経営されています。こういう行事あるよってということとか、夜間中学校研究会っていうのがあってとか、色んな情報交換とかもしています。

次に、私の学校について話をさせて頂きます。夜間中学校が私の学校なんですけど、葛飾区、まあ下町で、こち亀とか、寅さんとかの葛飾でございまして。今現在で、通常学級4クラス、日本語学級4クラスという形になっております。で、12月1日現在で計40名でしたが月曜日から1名増えましたので、41名になりました。学力に応じてクラス編成は行われています。スタートの学年で、3年間しか居れないんですが、途中から入ってきたら大体何年生に入るかというのを決めてもらっています。今は年度途中ですが、今1年生だったら4月から2年生になるという形になりますね。

次に生徒の国籍なんですけど、中国、エチオピア、フィリピン、ネパール。ネパールが一番、今多いところまでございます。ヨルダンの人も1人いるし、インドの所は括弧してあるのはインドの子は日本国籍だからです。ハーフの子で帰ってきて日本



大西深雪は2020年4月に東京の夜間中学に赴任した

語はまあ出来るんだけど小学校3、4年生くらいまでしか行ってないっていう子が1人います。なので、括弧にさせていただきました。学習時には通訳の方がいて、ネパール語の通訳の方が週1回、中国語の通訳の方が週2回来てくれています。結構密に生徒と関わってやっております。英語は私が通訳を勝手にしてます。それで、カリキュラムなんですけど、5時半から6時10分までが1時間目です。日本語の教科書は「大地」と「漢字大好き」からスタートします。あと平仮名は自分たちで作った平仮名、片仮名の練習のやつを使っています。

現在の生徒数は40名でして、内訳は外国籍が32名、日本国籍が8名です。これは海外からの帰国者も含めてます。他にも、長期不登校の経験者、既卒者の形式卒業の子たちも数人います。実は退学者数も結構居まして、11名です。それはお年召した方ですと健康上の理由ですとか、女性の方では妊娠されて辞めるケースというのがあります。現状でも色々と問題がありますが、特に問題として年度途中の入学者は日本語教育をどうやっていけばいいのか、どんどん進める中に日本語の全く分からない人が入ってくるとどうやって授業進めていくかっていうことで、学校の中でも色々賛否がある状況です。あと、始業時間に間に合わない希望者は断ってるというのがあります。というのは、先程自主夜中のこともあったんですけど、うちの学校はやっぱり公立の夜間中学ですので、毎日休まずに5時半の始業時間に間に合うようにということと厳しく言っているの、私5時半に仕事終わるから6時にしか来れないんですけどって毎日それが続くという方に関しては、断らざるを得ないという状況だということです。毎日学校をやっていますのでね。他に問題って言うと、長期不登校経験者の学習の問題がありますね。中々難しいです。解決が進まない現状があります。

課題としては生徒が減っているということです。生徒募集の拡充をすること、これが課題です。私たちは2つにターゲットを絞っています。日本語を学ぶ必要のある外国籍の人、それと形式卒業をした長期不登校経験者。この2種類の人達にフォーカスを当ててやっております。それから色んな複雑な家庭状況とか生活の状況がありますので、そういった意味で退学者が出てしまう中でその人たちをどうやってサポートしていくかということも私たち教員の仕事かなとも思っています。他には、教員側の多文化理解ですかね。それと障害理解。ここも分かってないと中々、え、なんで、どうしてっていうことになってしまいます。色んな文化を分かっていないと、生徒からの要望なども中々受け止めきれないので、そういうことも含めて学んでいきたいと思っています。

双葉での課題への取り組み。これは今年からやっておりますけど、募集活動として公式FacebookとInstagramを開いたしました。これは教育委員会に交渉しまして、出来ました。それとチラシ配布に中学校訪問、それから卒業生にも声を掛けています。大きな取り組みとしましては関連機関との連携ですかね。これも積極的にやっております。NPO、Learning for Allのところへうちの生徒で行っている子がいますので、そこでケース会議を学校で行って、関連者の皆さんを集めてやっています。そういった活動もやっています。あとは、語学研修やったりイスラム文化への理解などもやっています。あと、検索して頂けると写真もここで見れますので、お願いいたします。ということで終わりたいと思います。ぜひ作品展にも来てください。

### 葛飾区立双葉中学校夜間学級について



「男はつらいよ」「こち亀」「キャプテン翼」の舞台になった下町の葛飾

- ・ 昭和28年(1953)に夜間学級が開校
- ・ 翌年パン給食開始
- ・ 昭和35年(1960)完全給食開始
- ・ 平成10年(1998)に日本語学級開設

- ・ 通常学級4クラス・日本語学級4クラス
- ・ 通常学級22名、日本語学級18名
- ・ 計40名在籍(12/1)
- ・ 学力に応じてクラス編成
- ・ スタートの学年もそれぞれ
- ・ 生徒の国籍＝中国・エチオピア・フィリピン・ネパール・ヨルダン・韓国・(インド)
- ・ 通訳はネパール語(週1)・中国語(週3～4)

### 東京都の夜間中学校・葛飾区立双葉中学校について

葛飾区立双葉中学校 教諭 (日本語・英語) 大西 深雪

1. 自己紹介
2. 前半ー東京都の夜間中学校について
3. 後半ー双葉中について
4. 質問コーナー

### 双葉中カリキュラム

学活	5:25
1限	5:30~5:30
2限	6:15~6:55
給食	6:55~7:25
3限	7:25~8:05
4限	8:10~8:50
掃除・学活	8:50~9:00

- ・ 通常学級 A~D組 4クラス
- ・ 日本語学級 E~G組 4クラス 能力別



### 現状と課題

- ・ 生徒数 計40名 (うち日本語学級18名)
- ・ 外国籍 32名 日本国籍 8名
- ・ 長期不登校経験者 6名
- ・ 再び不登校傾向 2名
- ・ 12月までの今年度の退学者数 11名
- 健康上の理由、帰国、転職による引越、コロナによる失業
- ・ 年度途中の入学者 ー 日本語進捗状況
- ・ 始業時間に間に合わない希望者を断っている
- ・ 長期不登校経験者の学習上の困難さ・複雑な家庭環境や発達障害
- ・ 生徒募集活動の拡充をすること
- ・ 日本語を学ぶ必要のある外国籍の外国人の生活状況把握・理解
- ・ 外国人の生活状況把握・理解
- ・ 家族などの介護をしている人
- ・ 複雑な家庭環境の人
- ・ 障害などの発見やサポート
- ・ 妊娠・子育て中の人の学校生活
- ・ 教員側の多文化理解や障害理解


### 自己紹介

2000-02 大阪府立の養護学校、聾学校、普通科高校勤務  
 2002 渡米。語学学校にて2か月半英語を学ぶ。  
 2003 Minneapolis Community & Technical College入学 (日本語TAも)  
 2008 University of St. Thomas 大学院 卒業  
 2009-17 ミネソタ州 NPOの自閉症児童療育施設や公立学校 勤務  
 2018帰国 大阪府立の支援学校 勤務復帰  
 2020 東京都・葛飾区立双葉中学校 夜間学級 勤務スタート

- ・ Master's Degree 修士 (Special Education)
- ・ ミネソタ州 K-12 Special Education Teacher (EBD) License (行動情緒障害)
- ・ 自閉スペクトラム症 (ASD) 準修士

Emotional Behavioral Disorder

### ちょっと紹介: ミネソタ州



- ・ アメリカの冷凍庫! 極寒の地 -20℃
- ・ 自然、医療、商業 (メイヨークリニック、小売製粉、3M、ベストバイ、ターゲット)
- ・ 芸術、音楽、教育水準が非常に高い
- ・ ポプデュラン、プリンスなどのアーティストを生ま出す自由な気質
- ・ 元は北欧からの移民、過去20-30年は ソマリ人、ベトナム人、モン族、カレン族
- ・ Twin Cities (ミネアポリス、セントポール、その郊外を含むエリア) 全米住みたい町ベスト10などにも入る!


### 双葉での課題への取り組み

- ・ 生徒募集活動
- ・ 多文化理解

公式FacebookとInstagramの開設  
 チラシ配布 (駅・近隣の外国レストラン・教会・モスク)  
 中学校訪問  
 個人的に声をかける

語学研修  
 イスラム文化などの理解

関連機関との連携  
 Learning for All 等への訪問  
 ケース会議 (地域のSSW, 学校のSC)



インスタ・FB 登録してください!


futabajuniorhighnight

葛飾区立双葉中学校夜間学級  
 で検索!

### 東京都の夜間学級

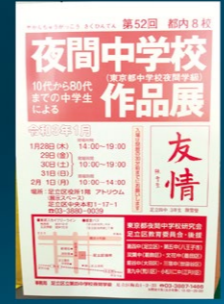
- ・ 都内に8校
- ・ 日本語学級 8校中 5校に設置
- ・ 10月末の 8校合計在籍数 232名
- ・ 学校に在籍できる年数ー3年間
- ・ 日本語学級に在籍できる期間ー1年
- ・ 8校が一緒に行う行事 (連合体育大会、作品展 etc.)
- ・ 東京都夜間中学校研究会など

### 葛飾区立双葉中学校夜間学級について



「男はつらいよ」「こち亀」「キャプテン翼」の舞台になった下町の葛飾

- ・ 昭和28年(1953)に夜間学級が開校
- ・ 翌年パン給食開始
- ・ 昭和35年(1960)完全給食開始
- ・ 平成10年(1998)に日本語学級開設
- ・ 通常学級4クラス・日本語学級4クラス
- ・ 通常学級22名、日本語学級18名
- ・ 計40名在籍 (12/1)
- ・ 学力に応じてクラス編成
- ・ スタートの学年もそれぞれ
- ・ 生徒の国籍ー中国・エチオピア・フィリピン・ネパール・ヨルダン・韓国・(インド)
- ・ 通訳はネパール語 (週1)・中国語 (週3~4)



### 作品展のお知らせ

足立区役所1階 アトリウム

1月28日(木) 14:00~19:00  
 1月29~31日 10:00~19:00  
 2月1日(月) 10:00~14:00

### Questions!

## 対 談

○桜井 じゃあまたすみません。代わってもらってもいいですか。

お待ちせしました。関西の様子について、ちょっとお話をさせて下さい。

関西では公立夜間中学校が全部で18校、存在しているわけなんですけど。生徒数、これは今年の9月現在のものです。生徒数ですが大阪は897名です。これ先程の東京都の数と比べてかなり多いんでないかなと思います。関西全体で1,137名です(25ページ、右側下から2番目のスライド)。昼間の義務教育の学校と違うところは、入学出来る期日というのが決まっているところです。昼間の義務教育の学校であれば、途中から編入であったり、転校というのが出来るわけですけど。夜間の場合は、今まで学校に通われてなかった方が、例えば12月から学校に行きたいということになったら3月までの4ヶ月間で1年間の授業を修了出来たとみなすのかどうか、その点は非常に難しい問題でして、大阪府の学校の入学時期は4月と9月の2回となっています。尼崎の琴城分校は概ね9月末までです。それから神戸市の方は7月末まで。それぞれでね違います。ですので、まだこのデータは9月の半ばですから、もう少し人数が増えている可能性がありますね。で、こんだけ人数居てはるん、ほんなら、毎日ぎゅうぎゅう詰めやったら学校パンクするみたいな感じですよ。なんですけど実は出席率は東京に比べてかなり低いです。そこに関してもおおい話をします。

他には神戸市立の夜間中学校以外は生徒会を持っています。この生徒会の在り方が東京の生徒会の在り方とはかなり違いますので、お話をさせていただきますね。**多くの夜間中学校が近畿夜間中学校生徒会連合会に加盟しています。**今年にはコロナの影響で行事的なものはほとんどにも出来ていません。例年なら新入生歓迎会、生徒会連合会の総会、総会に関しては大体毎年400人くらいの近畿の夜中生か一同に会するというようなそんな生徒会連合会の総会があります。それから連合の運動会、作品展、いろんな活動があるのですが、今年はなかなか出来ないですね。今までは近畿夜間中学校生徒会連合会としてこういった活動を行っておりました。

この統一募集活動というのは何かといいますと、夜間中学の知名度があまりに低いということでいろんな駅前や夜間中学のチラシを配るといような活動をしているところですよ。ここが関東のところとは違うところですよ。先程大阪の夜間中学の歴史が天王寺夜間中学の発足から始まったということをお井先生の方からお話を頂きましたね。高野雅夫さんの運動があったからこそ公立夜間中学校が設置された。その流れを汲んでおります。毎年、生徒会連合会として大阪府の教育委員会との話し合いを持っています。生徒会がおこなっているんです。ここの部分がやはり関東とは大きく違うところかなと思います

これは尼崎市の公立夜間中学校の歩みです(次ページスライド)。**1986年、生徒不在の卒業式。**これは何かというと、それまでは在籍の上限が3年やったんですが、その時に一生懸命通ってはる小学校行けてへんかった生徒さんが卒業を3年で迎えたんですが、「私らようやく自分の字や住所書けるようになったけれど、まだ新聞読まれへん。もっと勉強させてや。義務教育や」、そう言うて全員でボイコットしてしまったんですよ、卒業式。それが新聞に載ってしまったんですよ。その後だいぶ時間掛かりましたけど、94年の校長が在籍の上限を緩めましょう、と。大阪を見習って。大阪は9年と言ってるんですね、尼崎市も概ね9年くらいにしておきましょうというふうな形に落ち着きました。でも、もっと学びを続けたいと言った人で9年以上在籍してはる方もおられました。さらに、近隣市で就学助成金制度が成立されました。これはなぜかと言うと、尼崎市は人口50万人くらいいたんですよ。で、今、民間委託されましたが、市内に市バスがあったんですよ。この市バスが高齢者無料やったんですよ。交通費が掛からないんですよ。せやけど隣の市から来る人は電車で来ますので、電車で来る人は電車賃がかかります。就学援助というのは尼崎市が認めていないけど、「就学援助に代わる何か、つけてや」と。これも琴城分校生徒会が近隣市の教育委員会に掛け合ったみたいですよ。それで近隣市の就学助成金制度というのが作られるようになったと聞いています。

これ見てください(26ページ、左側一番上のスライド)。このアンバランス。1年生、2人。今、あとから3人入りましたので、5名に増えましたけど。2年生2人、3年生27人。どうということかわかります? 入学しても3年経って3年生に上がる人は上がる、でも卒業するかっていうと、「いえ先生もうちょっと勉強させて」という人もいますね。若い方で来年、再来年、高校行きたいねんっていう人は1年生に在籍してしまうと卒業まで3年掛かっちゃうんですよ。というこ

とで2年生、3年生に編入していただくということがありますので、このようにアンバランスなことになってしまうんですよ。1年目の方が3人、これは今6人になってるのかな。で、在籍の中で10年以上の方が2人居てはります。この他に「聴講生」制度もあります。これって、琴城分校の卒業証書もろてはっても、「先生もうちょっと勉強したいです」という人は自由においでって、そういう制度ですよ。ですので、20年目の人も実は居てはります。

開校当時には尼崎という街にたくさんの大きな工場がありました。その下請け孫請けで働く、日本籍の生徒とそれから在日コリアンの生徒が半々だったと言われていました。ただ日本籍の生徒は沖縄や奄美出身者が圧倒的に多かったという記録が残っています。その人たちが徐々に徐々に減って行って、一気に中国帰国者が急増したときがあるんですよ。その時の学校というのは中国語だらけでした。そういった方もだんだん減っていき、今ネパールの若者が急増しています。で、形式卒業者の増加というふうになっています。

これ、画面に時間割が出ています。公立学校ですから、1年生何クラス、2年生何クラスっていう基準でクラスが配置されるんですよ。でも実態的には、1年生で入学した方の中には、親の仕事の関係で最後の1年間が通えへんかったんで中学校2年くらいの勉強やったら出来るでっていう人も、小学校1年から学校に1回も通ってへんという人とかも、日本語が全く喋れませんっていう人もいます。この皆さんが1年生として同じ教室で勉強するとなるとですね、非常に厳しい。なので、日本語の力によって5クラスに分けて、つまり5つのクラスとして展開しています。日本語初級1、日本語初級2、日本語初中級、と。日本語初中級のクラスは、進学も視野にいた新渡日の若者が中心のクラス編成としています。識字1は主に小学校の学習内容、識字2は主に小学校から中学校の学習内容です。多くの夜間中学は、在籍人数によってクラス数は違いますが、こういった形を取っているのではないかなというふうに思っています。

給食の話なんですけど、こういう写真になってます。パンと牛乳だけのこういった給食は補食給食という言い方をしますが、これが提供されています。ここに子どもたちが写っていますが、これは昼間の学校の子どもたちですよ。人権教育のとりくみでうちの学校を見学に来られることがありましたので、そのときの写真です。

兵庫県には、3校しか公立夜間中学校がありません。この地図がね大阪なんですよ。こちらへんに神戸があります。これが尼崎市。ここが伊丹市。ここが川西市。歌劇で有名な宝塚。こんな感じですよ。で、尼崎市立の公立夜間中学校はここにあります。このオレンジ色の線が阪神電車、ブルーの線はJR、茶色い線は阪急電車というそれぞれ鉄道会社が走っています。尼崎には南北の鉄道がないですから、生徒さんどないしてんのやーっていうとね、これバスの路線なんですよ。結構多くのバスの終点が阪神尼崎駅なんですよ。なので、バスで通う人も一定数おられます。もちろん経済的な問題で自転車で通われる方もいる。電車は夜の21時、22時でも大阪行きとか神戸方面、10分や5分に1本電車通るんですよ。尼崎っちゅう街は。ところがバスは、昼間は15分か20分に1本来るんやけど、夜20時過ぎるとバスが極端に減ってしめて、21時のバスを逃すともう次はないと。だから21時までは、特に遠方の生徒さんは、最後まで授業受けられへんのですわ。だから「先生、私3時間目終わったらいつも帰るでー」と言っている生徒さんが居られます。それから働いておられる生徒さんには「ごめん1時間目、間に合わへんねん、どうしても。許してな」という生徒さんもおられます。先程東京のお話の中で、「1時間目きっちり間に合う人」という条件があったと思います。残念ながら、それをすると非常に厳しい現実があるんじゃないかなと、私は思っています。でも、兵庫県の中にも大阪の中にもやっぱり公立校やねんから、きっちり1日4時間授業受けてもらわな困るって言う方もおられます。

これ時間割ですよ。これ何年か前の時間割で、今年ではありませんけど。いわゆる国語の授業のことを日本語という言い方をしておりますが、圧倒的に日本語の授業が多いというのがわかると思います。1週間は20時間しかございませ





るので、美術や技術に家庭科もと、全て保障せなあかんねんけど、それしてたら間に合いません。なので、「創作」いうて勝手に自分で作ってます。その中で、全部まとめてやっているというような工夫が必要になってきます。音楽の授業もだし、高齢者でも体育の授業もするので。関西は高齢者多いんですわ。関東はほとんど残っておられませんね、先程もあの、入学希望既卒者、不登校経験の方と外国籍をターゲットにと仰ってますけど、関西の方はまだまだ高齢の方がたくさんおられます。また、公立校ですから避難訓練などもせなあきませんから、高齢の方に「下の校庭に走って逃げましょう」なんてとてもでないけど言えません。「ゆっくり怪我せんように降りて下さいよ」って私らは言うてます。

「夜間中学校が大事にしているものなんやねん」って、ここに「日本語」と書いてありますけど、これは国語やと考えてください。国語でも当然、漢字の読み書きというのは大事です。でも、それだけじゃなくて語彙、文法の力、対人交流の力、読解力、表現力も大事ですよ。

学校として琴城分校全体として育てたい力は、社会認識と自己有用感。こういったことをきっちりと生徒さんたちにも頑張ってもらいたいな、僕らもそういう力をつけていきたいなというふうに思っています。**夜間中学校で取り戻してきたものは、奪われてきた文字だけちゃうねんで。自分に自信を持ち、誇りを持ち、自己実現できる生き方を取り戻す、これは自主夜中にも共通しているものでないかなと考えています。**

関西には夜間中学校ではないけど、独自に、識字学級というものをたくさん開設してはりました。これは、そこで培われてきた力、大切にされてきた力、自らの社会的立場の自覚、自分はこういう立場なんやと。そして、尊敬できる存在としての自覚。これをやっぱり大事にしていこうということです。これは関西の夜間中学校で共通しているものではないかなと思います。

私も大西先生も公立の夜間中学校に勤めています。私は勤めていました。その時は、ありがたいことに労働の対価として賃金を頂いていました。自主夜中の方は違います。果たして、自分たち教員がどういったことを、何を大事にこの夜間中学校で勤めさせてもらえばいいのかっていうのを、絶えず問う力がないと、公立夜間中学校は駄目になっていくと思います。**私たちが問われているものは何なのか。生徒さんの一人一人の生活実態を見抜き、共感し、共に闘える力じゃないかなと私自身は思っています。**そこはいろんな議論があるかも知れませんが、教育行政はどうなんや、夜間中学校を支えてくれる教育行政になっているかどうか。その部分をしっかり見ていかないと、関東のとある中学校みたいになってしまうのではないかと恐れています。

実は尼崎の夜間中学も今非常に危ない状況ではあるんです。また、後の議論の中でひょっとしたら出てくるかもしれませんが、ここが非常に大事なポイントではないかなというふうに思っています。関西の夜間中学と尼崎の様子を少しだけですが、お話をさせて頂きました。では、今から2人でお話をさせて頂きますので、宜しくお願い致します。

先ほど申しましたように関西の公立夜間中学校は、それぞれ在籍期間の上限が違います。で、その3年間で十分学びを保障できるのかという事なんです。公立の夜間中も3年間で学び終われない人たちを切り捨てるわけにはいかない。だから、例えば仕事をされていても、17時半の始業に間に合わないとしても切り捨てることはない、19時でも受け入れようや、そこはきちんと受け入れようや。そういう学習者いてはるんや。高齢者の方でバスがない、しゃーないやん20時に帰るんも。それを認めていこうやという意識が、関西の学校には非常に強くなっていうふうに思っています。

○大西 東京都はですね。東京都がそういう風に決めているのと、あとやはり高齢者の方が3年で果たして学力が保障されるのかどうか、外国人の方も3年で世に出ていく準備が出来るのかどうかと、そういう所に問題があります。あともう1つ、日本語学級に関してなんですけど。日本語学級は1年と決められていて。主に東京都が決めているんですけど。じゃ

		月	火	水	木	金
1	17:30 5 18:10	体育	数学	音楽	選択	創作
2	18:15 5 18:55	総合	理科	社会	日本語	日本語
18:55~19:15		給食				
3	19:15 5 19:55	日本語	日本語	日本語	日本語	日本語
4	20:00 5 20:40	日本語	日本語	日本語	数学	選択

兵庫県教育委員会発行 小学校教育資料【ほほえみ】(高学年用/2019年9月) “「学ぶ」ということ”より

あ1年で本当にその人達が必要な日本語を身につけられるのなという中々そうはいかないのが現状です。通常学級に上がっていくんですがその中で一応普通の授業を主として、日本語と並行してやっていくというのが私たちの学校でのあり方なんですけれども、まあそんなところですね。

○桜井 じゃあ一体何年だったら保障できる、保障したことになるんや。10年、20年いろんな議論がありました。例えば高齢者の方が私もうちょっと勉強したいねんと。10年、20年学び続けたときに、それはそれで公立の学校なんで、やっぱり一定の金額を措置して、市町村が保障することになりますからね。それで認めていいのかって議論になってましたよね。

○大西 私の学校でもよく賛否両論あるんですけど、やはり公立の学校なんで、税金でサポートされているよねっていう話。先ほども少し話をさせて頂いたんですけど、せっかく入学希望して下さったのに、断らざるを得ない状況があるということも言ったんですけど。私の学校では、例えば、働いていてたまに夜勤があってちょっと遅れるんですけどか、それは許してるんですけど。毎日この時間にしか来れないという人に関しては、うちは公立だから、税金だからねそれは困るんだよという風に説明をして、泣く泣く断ってるという状況があります。まあ、そこですよ。そこがやっぱり焦点になってくると思います。そこが自主夜中との大きな違いかなと思います。

○桜井 関西は、9年間以上というものが有りますから、比較的そういう方でもとにかく入れると。で、夜間中学校に入学して自分が将来こういうふうになっていけるとわかったら、今は仕事をせんようにしよかなとか、そういう考えになる可能性がありますやん。せやから、とりあえず入学してもらっているという状況ですね。ところが、3年間しかないと、なかなかそういうこともできないとなります。ただ先程も言いましたように、行政の方からの、果たしてどこまで認められるんや、どういところまではOKなんやっていう視点も、議論が必要ではないかということですよ。

○大西 発達障害等の中々しんどい子供たち、まあ10代の子供たちです。この生徒たちなんですけど、やはり3年で中学を終えるというのは中々厳しいものがあります。うちの場合は、長期に、3年生ぐらいから学校に行けてないよという子供たちが16歳から26歳ぐらいの不登校形式卒業者が来てるんですけども、やはりこれも中々計画通りにももちろん進まないです。それに元々持っている知識というのも少ないですから、いきなり中学校の教科書やろうっていても難しいのでそのもっと前からスタートしてるんですよ。ということはやっぱり3年では終わらないわけなんです。しかも今年はコロナで遅れてますので、余計にということになりますね。

○桜井 最近、2015年でしたっけ。形式卒業者も夜間中学として受け入れることが公に認められました。少しでも不登校経験があれば認めていこうというようになりました。関東はどうか分かりませんが、私の勤務していた学校では、不登校経験をされた方は夜間に来てもなかなか毎日通うことが出来ないという方が多いです。そのところどうですか？

○大西 それはこちらと同じくです。やはりそういう状況の不登校経験者はやっぱり通えていない子がいます。

○桜井 そうなってくると、やはりそれは3年でええんかなという課題も考えていく必要があるんとちゃうかなというふうに思いますね。

また、兵庫県の場合、在住であったり在勤者であったりという枠があります。また大阪府の場合は、他府県の場合は即入学ではなくて、入学相談に応じますという微妙な言い方ですが、もちろん、即OKが出る方もいます。そこで相談の電話があった時に、その相談電話を取りついで人の意識がものすごい問われるんですね。例えば、私の勤務していた夜間中学校は在住で在勤ですが、在住でも在勤でもない人からの入学希望の電話をとった時に、「あなたどこですか?」「隣の西宮ですね。」「在住者が在勤者ですか?」「いえ、違います。」「あ、じゃあすみません。残念ですね。」「ガチャ。ていう先生もいてはります。でも、「ちょっととりあえずお話だけでも聞かせてください」って言うて学校に来てもらて、なにかしらの手立てが取れないかっていうのを考えて下さる先生もいてはります。その先生方の意欲とかがすごく大きくなって感じるんですが、どうですか。

○桜井 それは学校だけじゃないですよ。この入学相談というのは学校に直接だけでなく、教育委員会もですよ。教育委員会の担当者の意識っていうのは、実は重要ではないのかな。教育委員会の方が、夜間中学の教員の人事配置もしますからね。どういった人を夜間中学に回そうっていうのも、教育委員会の人達のそういう意識、さじ加減っていうところがありますよね。そのあたりの意識が問われるのかなって。

今度、北海道にも夜間中学が設立されるということなんですけど、やはり公立夜間中学を作る時の制度設計には、夜間中学経験者であったり、それから、自主夜中で経験をしてこられた、サポートしてこられた、その当事者に寄り添ってこられた方の意見反映を出来るような仕組みを作っておかないと、なんかピントの外れた夜間中学が出来てしまうのではないのかなと常々危惧しているところではあります。夜間中学が設置された後も継続的に見ていかないと。夜間中学を潰すのもいと簡単やからとも思いますから。だって、設置する義務はありませんからね。いくら教育機会確保法が出来たとはいえ、いろんな事情で潰すことは簡単やと。入学も夜間中学って知名度ほとんどありませんから、発信することをやめた瞬間に入学者も希望者もあつという間に減っていきますから。そういうところありますよね。

○大西 今それがまさしく起きていることです。私たちがなんぼ情報がここにあるよって、いろいろな中学があるよ。っていう政府が作ったウェブサイト、ここに何語でもあるよって言われてもそこに行き着かないんです。その外国人の方とかニーズのある方がそこに辿り着けない。そういうことは、どうやってそこにリーチアップするか、そこが問題なんですね。そこで私が考えた策は、公設のFacebookのページとInstagramを開設するという、そういうピンチアウト、そういうプラットフォームを使ってコミュニティーなり、オンラインなりリーチアップしていく、こういうことが必要になって来ていると思います。

## コメントおよび質疑

### ○佐々木優香

皆様、こんばんは。先生方ありがとうございました。宇都宮大学国際学部特任助教をさせていただいております佐々木優香と申します。身に余る大役ということで大変恐縮なんですけれども、本日、桜井先生、大西先生のお話を伺いまして、本当に色々と考えさせられることがありましたので、感想になりそうなんですけれども、お聞き頂ければと思います。

私の研究はドイツをフィールドとしておりまして、ドイツにおける外国人児童生徒の教育に興味をもって研究して参りました。それと同時に日本との比較もしていまいりました。日本の特に茨城県常総市を見てきました。茨城県常総市には日系ブラジル人が比較的多く在住してるのですが、これまでも継続的に中学校を訪問して先生方と意見交換をしたり、ボランティアとして学習支援に携わる機会を頂いていました。ちょうどその茨城県常総市に公立の夜間中学が出来て、今年入学式が行われたということ、私もすごく嬉しく聞いていました。ただそれでは満足出来ないんだということ、いつも文科省の地図を見ていて思うんです。この地図では34校公立の夜間中学があるということを示しているんですけど、トリックみたいな感じで、地域ごとに見てみると実際の学校数は本当に少ないということが、改めて見るとわかるんです。まだまだ課題があるなと考えています。

それから、自主夜間と公立の夜間中学の違いということ、様々なポイントが挙げられたかと思いますが、年限の違い、これは学校によっても違うということですよ。それに先生の移動があるということ。それから時間的な制約。他にも国から出されているお金であるということ、入学希望を断らなきゃいけないケースもあり、厳しい状況は公立の夜間中学でもあるんだなと考えさせられました。やはり公立ですと、卒業資格が得られるということが1つの大きな役割かなと思います。その卒業資格を得ることによって可能性が広がるということは本当に学習者にとっても大きいと思うんですけど、その分制約があるということだと思います。公立の夜間中学ができたその後、どう対応していくのかという難しさについて考えさせられました。それから、ニーズの変化という課題もあるのかなと思いました。学齢超過の方々、それから外国籍の方々も関西と関東では違うということですよ。そうすると先生方も多様な背景をもつ方々に対応しないといけないし、そのニーズもどんどん変わっていくというところで、大変なのだと思いました。

こういった中で大西さんのようにアメリカで色々な経験をしてき先生がいらっちゃって、また自分も大変な思いをした経験から子どもたちの気持ちに寄り添ってくれる先生がいるということが、学習者の方々には非常にラッキーだと思うんです。でもその一方で、公立夜間中学だと先生の移動がありますから、先程も最後に仰って下さったように、人によって考え方が違って、こういった夜間中学や学びを求めている方々に対して理解がある先生もいれば、あまり関心がない先生がいるというところが、まばらになってしまっていることも大変だと思います。ここが今後の課題ではあるかなと思いました。

それから、地域性ですよ。関東と関西で違うというところ。こちらは全く知らない情報でしたので、具体的な制約というか、年限から始まり、時間割とか具体的なことであったり、授業内容として日本語が多かったりというのも、その地域性や入学の時期など、受講者さんに合わせて変えていく必要があるのだと思いました。そして常に新たな課題が生まれているということでもあるので大変勉強になりました。

異なる地域間で夜間中学関係者の皆さんが交流する、情報交換をするというこのような場で、公立の夜間中学の中でも地域によって違うというところを面白い掛け合いという方法でお話くださったので非常にわかりやすかったです。今回、このような交流の場ができたのは田巻先生のおかげです。このような場に参加させて頂いて非常に嬉しく思いました。以上で私の方からは終わりにさせて頂きたいと思います。ありがとうございました。

### ○三浦美恵子

本日は貴重なお話ありがとうございました。国際医療福祉大学の三浦と申します。一部からお話を聞いていて、この夜間中学校に集まる生徒さんの知的欲求の高さというか、単に試験があるから勉強するとか、学位を取りたいから論文を書くとかそういうことではなくて、本当に、自分で知りたいと思ったことに従ってまっすぐに学んでいる人達の姿から、すごく学ぶことが多かったです。

桜井先生と大西先生のお話は、私自身が聞きたいと思っていた内容が後半に出てきていて、それはとりわけ教員等の学校関係者の意識の強さがないと、それだけ強い思いを持っている方々を受け入れるということに伴う責任というのがかなりあると思いますのでリアルなお話を聞くことができて、すごく勉強になりました。それで、様々な学習歴の方たちは、学校なので勉強を教えるってことはある意味当たり前かもしれませんが、生活歴とか異文化背景が様々多様であって、さらには仕事のスケジュールなんか色々な方がおられて。夜間中学だからこその面白さと、難しさがあると思います。1つ伺いたいですけれども、どのようにしてその自分のモチベーションをずっと高め続けるかって言うこと。先程少しお話がありましたが、常に自分に問うという態度が大切だと仰いましたが、それはどういう風に具体的にされているのか、可能であればせつかなのでお聞きしたいなと思ったんですが、よろしいでしょうか。

### ○桜井克典

やはり生徒さんの顔を見て話を聞いて、それが一番かなと。「最近あの生徒さん顔見えへんなあ、どないしたんやろ」と家庭訪問に行くと、初めて見えることって、ものすごい多いんです。でも、生活の背景を丸ごと掴もうっていうのは、大阪の被差別部落が多く持てる学校で、今までもずっと実践されてきた。家庭訪問はほんとにそのままのことが今の夜間中学なんかでも実践されてきたと思う。でも、行かないことには、自分たちがどうしても、緩い甘い方向に流れてしまう。でも、訪問した時に声を上げれない生徒さんの生活実態を見て、その生徒さんが求めていることは何なのか、ていうことを常に感じることで自分のモチベーションを上げるというか、頑張らせてもらっています。

### ○大西深雪

私の場合はですね。教育の原点に立ち返るといって、最初に私が先生にさせて頂いたきっかけになった養護学校での経験をいつも忘れないようにしています。

私が最初に担当した生徒たちは、肢体不自由の学校だったので。脳性麻痺の生徒も、中学生の生徒だったんですけども、ほとんどお話もできないです。「なんとかちゃん」って話しかけても反応もできないような生徒だったんです。私、今英語の教師なんですけど、当時は音楽の担当をしておりました。音楽をして、音楽を鳴らすと反応してくれて。そんな返事もできなかった生徒たちが体をリズムに合わせて動かすんですよ。

それを見たときに、私は教育とはなんてこう可能性のあるものなんだと感動しまして、それで教員を本格的に目指したという経緯があります。それをいつも思い出して、自分を奮い立たせております。